耳原総合病院
内科専門研修プログラム
2026 年度版

2026 年 4 月 1 日　修正
2017 年 2 月 28 日　作成

目次

１　理念・使命・特性 P.3
２　募集専攻医数 ..... P.3~4
３　専門知識・専門技能とは P.4
４　専門知識・専門技能の習得計画 ..... P.4~7
５　プログラム全体と各施設におけるカンファレンス P.7
６　リサーチマインドの養成計画 P.7
７　学術活動に関する研修計画 P.7
８　コア・コンピテンシーの研修計画 ..... P.7~8
９　地域医療における施設群の役割 P.8
10　地域医療に関する研修計画 P.8
11　内科専攻医研修(モデル) ..... P.9~10
12　専攻医の評価時期と方法 ..... P.11~12
13　専門研修管理委員会の運営 P.12
14　プログラムとしての指導者研修(FD)の計画 ..... P.12~13
15　専攻医の就業環境の整備機能（労務管理） P.13
16　内科専門研修プログラムの改善方法 ..... P.13~14
17　専攻医の募集及び採用の方法 P.14
18　内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件 P.14
耳原総合病院内科専門研修施設群 ..... P.15~38
内科専門研修プログラム管理委員会 P.39

１　理念・使命・特性

①　理念［整備基準 1］

本プログラムは地域医療の中で目の前の患者さんとフィールドのニーズに応えられる姿勢と実力、すなわち「主治医力」を備えた内科医師を養成するプログラムです。そのために以下の 2 点を重視します。1 点目は患者さんと向き合いそのニーズをつかむという姿勢の涵養です。2 点目は患者さんを診る上で必要な問題解決手段の具体的な修得です。問題解決手段の習得のために内科医として求められる医学的な知識・技術の追求とともに Bio-Psycho-Social Model を常に意識する姿勢を求めます。

②　使命［整備基準 2］

本プログラムの使命は、多様化する地域社会の中で地域医療に貢献できる総合性を備えた専門内科医と総合内科医の養成です。

③　特性

◇耳原総合病院を基幹型として地域に根ざした病院での研修が中心のプログラムです。地域のニーズから生まれ、これまで診療所から急性期病院までの幅広く断らない医療を展開してきたわれわれにはこの目標を達成するために十分なフィールドと実績があると自負しています。

◇地域医療で活躍できる内科専門医を養成するために、希少疾患に偏ることなく common disease を数多く経験することを重視します。また、総合内科研修、内科専門科研修のいずれの期間も当該科の問題点だけを扱うのではなく、患者の問題点を常に総合的かつ包括的に抽出し、必要に応じて診療内容を決定することを徹底します。さらには、3 年間を通じて外来研修ならび救急・当直研修を継続して行い、希望する専攻医には往診研修も保証します。

◇病院総合医（病院総合医）を志望する専攻医には専門医取得後に病院総合医に必要な内科以外の分野の研修を保障します。

◇今後高齢化が進み多様化する地域社会に貢献できる医師を養成するために、他職種や地域の医療機関・福祉介護事業所との連携を重視します。

◇症例が少ない分野の補てんや学術活動を深めるために、大阪公立大学附属病院や近畿中央呼吸器センターをはじめとする専門分野を学べる医療機関と連携します。

④　専門研修後の成果［整備基準 3］

内科領域専門研修整備基準において内科専門医の役割は

１）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
２）内科系救急医療の専門医
３）病院での総合内科（Generality）の専門医
４）総合内科的視点を持った Subspecialist

と定められています。耳原総合病院内科専門研修施設群での研修修了後はその成果として、自らのキャリア形成やライフステージと地域や施設のニーズに応じて上記の役割を 1 つないし複数果たすことのできるプロフェッショナリズムとジェネラルマインドを備えた内科医師を育成します。

２　募集専攻医数　［整備基準 27］

下記により、耳原総合病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 6 名とする。

１）耳原総合病院内科後期研修医は現在 3 学年併せて 10 名である。
２）剖検体数は、毎年度 8 例近くの実績があります。

＜耳原総合病院　診療科別診療実績＞

診療科・患者数（2024 年度）（病院のみ）

総合診療科	外来延患者数	346 名／年	入院患者数	7,144 名／年
消化器内科	外来延患者数	2,631 名／年	入院患者数	14,956 名／年
循環器内科	外来延患者数	6,619 名／年	入院患者数	16,884 名／年
糖尿病代謝内分泌膠原病外来患者数		509 名／年	入院患者数	3,534 名／年
腎臓内科	外来延患者数	1,198 名／年	入院患者数	11,845 名／年
呼吸器内科	外来延患者数	946 名／年	入院患者数	6,712 名／年
小児科	外来延患者数	1,299 名／年	入院患者数	5,156 名／年
救急科	救急搬送件数	6410 件／年		
救急外来患者数	13,101 名／年			

３）13 領域のうち在籍内科指導医・専門医は下記の通りである。（2026 年 4 月）

内科指導医	総合内科	循環器	糖尿病	消化器病	腎臓	呼吸器
15 名	10 名	5 名	2 名	4 名	2 名	−
血液	神経	ｱﾚﾙｷﾞｰ	膠原病	感染症	救急	内分泌
−	−	−	−	−	−	−

４）1 学年 8 名までであれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群、80 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能である。

５）専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群、120 症例以上の診療経験は達成可能である。

３　専門知識・専門技能とは

①　専門知識　［整備基準 4］

専門知識の範囲（分野）は「総合内科」「消化器」「循環器」「内分泌」「代謝」「腎臓」「呼吸器」「血液」「神経」「アレルギー」「膠原病および類縁疾患」「感染症」ならびに「救急」で構成される。

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」「病態生理」「身体診察」「専門的検査」「治療」「疾患」などを目標（到達レベル）とする。

②　専門技能　［整備基準 5］

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指す。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他のサブスペシャリティ専門医へのコンサルテーション能力とが加わる。これらは、特定の手技の習得や経験数によって表現することができない。

４　専門知識・専門技能の習得計画

①　到達目標　［整備基準 8-10］

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とする。

内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がある。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定する。

〇専門研修（専攻医）1 年：

◇症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、40 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録する。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われる。

◇専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システムに登録する。
◇技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、サブスペシャリティ上級医とともに行うことができる。
◇態度：専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャリティ上級医および多職種による 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行う。

〇専門研修（専攻医）2 年：
◇症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、80 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録する。
◇専門研修修了に必要な病歴要約を 29 症例全て記載して日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録を終了する。
◇技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、サブスペシャリティ上級医の監督下で行うことができる。
◇態度：専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャリティ上級医および多職種による 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行う。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックする。

〇専門研修（専攻医）3 年：
◇症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とする。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録する。
◇専攻医として適切な経験と知識の習得ができることを指導医が確認する。
◇すでに専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受ける。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改定する。ただし改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意する。
◇技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができる。
◇態度：専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャリティ上級医および多職種による 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行う。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックする。なた、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を習得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図る。

専門研修修了には、全ての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で 120 症例以上の経験を必要とする。日本内科学会専攻医登録評価システムにおける研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成する。

耳原総合病院内科専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能習得は必要不可欠なものであり、習得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）とするが、習得が不十分な場合、習得できるまで研修期間を 1 年単位で延長する。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を習得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた知識・技術・技能研修を開始させる。

② 臨床現場での学習 ［整備基準 13］

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得される。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験する。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を習得する。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載する。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足する。これらを通じて、遭遇することが稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにする。

1）内科専攻医は、担当指導医もしくはサブスペシャリティの上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽する。主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・

通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者さんの全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。
２）定期的（毎週 1 回）に開催する内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得る。また、プレゼンターとして情報検索及びコミュニケーション能力を高める。
３）総合内科外来（初診含む）あるいはサブスペシャリティ診療科外来（初診を含む）を少なくとも週１回、1 年以上担当医として経験を積む。
４）ER（救急外来）において、週１単位ほど内科領域の救急診療の経験を積む。
５）全科当直医・日直医として病棟急変などの経験を積む。併せて後輩の教育やチームリーダーとしての研鑽を積む。
６）希望に応じて、在宅管理患者の診療または関連診療所での外来を担当する。
７）必要に応じて、サブスペシャリティ診療科検査を担当する。

③　臨床現場を離れた学習　[整備基準 14]
１）内科領域の救急対応、２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、３）標準的な医療安全や感染対策に関する事項、４）医療倫理、医療安全、感染対策、臨床研究や利益相反に関する事項、５）専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽する。

１）医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会
内科専攻医は年２回以上受講する。
２）CPC
３）研修施設群合同カンファレンス
４）地域参加型のカンファレンス（耳原総合病院にて開催）
５）JMECC 受講（耳原総合病院 2025 年度までに 8 回開催、2027 年度開催予定）
６）内科系学術集会
７）指導医ワークショップ

④　自己学習　[整備基準 15]
「研修カリキュラム項目表」では、 知識に関する到達レベルを A(病態の理解と合わせて十分に深く知っている)と B(概念を理解し、意味を説明できる)に分類、技術・技能に関する到達レベルを A(複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる)、B(経験は少数例だが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる)、C(経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる)に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A(主担当医として自ら経験した)、B(間接的に経験している(実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した)、C(レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類している。(「研修カリキュラム項目表」参照)
自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、 以下の方法で学習する。

１）内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
２）日本内科学会雑誌にある MCQ
３）日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

⑤　研修実績及び評価を記録し、蓄積するシステム　[整備基準 41]
日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて、以下を Web ベースで日時を含めて記録する。

◇専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録する。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行う。
◇専攻医による逆評価を入力して記録する。
◇全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行う。
◇専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録する。
◇専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安

全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録する。

５　プログラム全体と各施設におけるカンファレンス　[整備基準 13.14]

耳原総合病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した。(「耳原総合病院内科専門研修施設群」参照)

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である耳原総合病院臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促す。

６　リサーチマインドの養成計画　[整備基準 6.12.30]

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢である。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となる。

耳原総合病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

１）患者から学ぶという姿勢を基本とする。
２）科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM；evidence based medicine)。
３）最新の知識、技能を常にアップデートする(生涯学習)。
４）診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
５）症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養する。
併せて、

１）初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
２）後輩専攻医の指導を行う。
３）多職種を尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行う。

７　学術活動に関する研修計画　[整備基準 12]

耳原総合病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、

１）内科系の学術集会や企画に年２回以上参加する（必須)。
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する。
２）経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。
３）臨床的疑問を抽出して臨床研究を行う。
４）内科学に通じる基礎研究を行う。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにする。
内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者として 2 件以上行う。

８　コア・コンピテンシーの研修計画　[整備基準 7]

※「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力である。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能である。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性である。

耳原総合病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、サブスペシャリティ上級医とともに下記１）～１０）について積極的に研鑽する機会を与える。
プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である耳原総合病院臨床研修センターが把握し、定期的に E-mai1 などで専攻医に周知し、出席を促す。
内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得する。

１）患者とのコミュニケーション能力

２）患者中心の医療の実践
３）患者から学ぶ姿勢
４）白己省察の姿勢
５）医の倫理への配慮
６）医療安全への配慮
７）公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
８）地域医療保健活動への参画
９）多職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
１０）後輩医師への指導
教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につける。

９　地域医療における施設群の役割　［整備基準 11.28］

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須である。耳原総合病院内科専門研修施設群研修施設は大阪府堺市医療圏、その近隣医療圏、および奈良県、兵庫県、和歌山県、京都府、三重県、青森県、群馬県、長野県、愛媛県、北海道、宮城県、新潟県、埼玉県、福島県、鳥取県、滋賀県、茨城県、神奈川県、千葉県、福岡県の医療機関から構成されている。

耳原総合病院は、大阪府堺市医療圏の急性期病院であるとともに、地域医療支援病院として病診連携、病病連携の中核的な役割を果たしている。一方で、地域に根差した第一線の医療機関でもあり、common disease の経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者さんの診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携も経験できる。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療及び患者の生活に根差した地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院、また地域密着型病院である近畿中央呼吸器センター、大阪公立大学附属病院、愛媛大学医学部附属病院、近畿大学病院、大阪労災病院、神戸市立医療センター中央市民病院、滋賀医科大学医学部付属病院、西淀病院、コープおおさか病院、尼崎医療生協病院、土庫病院、和歌山生協病院、神戸協同病院、京都民医連中央病院、健生病院、あおもり協立病院、利根中央病院、長野中央病院、勤医協中央病院、坂総合病院、ツカザキ病院、みどり病院、下越病院、香芝生喜病院、埼玉協同病院、西宮渡部心臓脳血管センター、医療生活わたり病院、済生会中津病院、鳥取生協病院、湘南鎌倉総合病院、水戸協同病院、千鳥橋病院、船橋二和病院、淀川キリスト病院、松本協立病院、仙台厚生病院、兵庫医科大学病院、浦添総合病院、立川相互病院、新潟医歯学総合病院、姫路医療センターで構成している。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につける。地域密着型病院では、地域に根差した医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修する。

特別連携施設である東大阪生協病院、吉田病院、おかたに病院での研修は、耳原総合病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導を行う。耳原総合病院の担当指導医が、吉田病院、おかたに病院の上級医とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保つ。

１０　地域医療に関する研修計画　［整備基準 28.29］

耳原総合病院内科専門研修施設群での研修は、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院＜初診・入院～退院・通院＞まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としている。

耳原総合病院内科専門研修施設群での研修においては、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。

１１　内科専攻医研修（モデル）　［整備基準 16］

【内科基本コース】

年次	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
１年次	耳原			耳原			耳原			耳原		
	JMECC の受講　当直研修、内科外来研修											
	20 疾患群以上の経験、登録 病歴要約 10 編以上の登録											
２年次	連携施設①			連携施設①			耳原			耳原		
	45 疾患群以上を経験し、登録 病歴要約は 29 編を登録											
３年次	耳原			耳原			連携施設②			連携施設②または③		
	70 疾患群を経験し、登録 登録した病歴要約の改定											

2 編の学会発表または論文発表
CPC、医療倫理、医療安全、感染対策の講習会の受講

ローテートモデル（例）

年次	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
１年次	総合内科（耳原）			糖尿（耳原）			腎臓（耳原）			循環器（耳原）		
２年次	呼吸器・神経（長野中央）						循環器（耳原）					
３年次	消化器（耳原）			総合内科（耳原）			血液・感染症（愛媛大学）					

【地域連携施設開始コース】

年次	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
１年次	連携施設①			連携施設①			連携施設①			連携施設①		
	JMECC の受講　当直研修、内科外来研修											
	20 疾患群以上の経験、登録 病歴要約 10 編以上の登録											
２年次	耳原			耳原			耳原			耳原		
	当直研修、内科外来研修											
	45 疾患群以上の経験、登録 病歴要約 10 編以上の登録											
３年次	必要な疾患群を経験するための研修 （耳原、連携施設①）						必要な疾患群を経験するための研修 （耳原、連携施設①または②）					
	70 疾患群を経験し、登録 登録した病歴要約の改定											

同上

【サブスペシャル領域重点コース】

年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	耳原			耳原			耳原			耳原		
	JMECC の受講　当直研修、内科外来研修											
	20 疾患群以上の経験、登録 病歴要約 10 編以上の登録											
2年次	連携施設①			連携施設①			連携施設①または②			連携施設①または②		
	45 疾患群以上を経験し、登録 病歴要約は 29 編を登録											
3年次	サブスペシャル領域重点研修 （耳原、連携施設①）											
	70 疾患群を経験し、登録 登録した病歴要約の改定											

同上

1 年次は基幹施設である耳原総合病院の内科（総合内科、消化器、循環器、代謝、膠原病、腎臓、呼吸器、救急等）を原則として 3 ヶ月毎ローテートする。

1 年次に連携施設での研修を行い、2 年次に基幹施設で研修を行う地域連携施設開始コースも設定する。

連携施設での研修期間は、原則 1 施設 3 カ月以上とし、専攻医の希望をもとに耳原専門研修センターが調整を行い決定する。ただし近畿中央呼吸器センターでの研修は原則 6 カ月となる。

連携施設①および②は以下より選択とし、連携施設②での研修期間は、原則 6 カ月以内とする。

連携施設①：西淀病院　コープおおさか病院　土庫病院　尼崎医療生協病院　和歌山生協病院
東大阪生協病院　吉田病院　おかたに病院　神戸協同病院　京都民医連中央病院
健生病院、あおもり協立病院、利根中央病院、長野中央病院　勤医協中央病院
坂総合病院、ツカザキ病院、みどり病院、下越病院、香芝生喜病院、埼玉協同病院、
西宮渡部心臓脳血管センター、医療生協わたり病院、宇治徳洲会病院、鳥取生協病院
済生会中津病院、湘南鎌倉総合病院、水戸協同病院、千鳥橋病院、船橋二和病院
淀川キリスト病院、松本協立病院、仙台厚生病院、浦添総合病院、立川相互病院
姫路医療センター、新潟大学医歯学総合病院

連携施設②：近畿中央呼吸器センター　大阪市立大学医学部附属病院、愛媛大学医学部附属病院
近畿大学病院　大阪労災病院、神戸市立医療センター中央市民病院、三重大学医学部附属病院
滋賀医科大学医学部付属病院、兵庫医科大学病院

研修ローテート科、施設の選択は、原則 3 カ月前までに、専攻医の希望・将来像、研修目標達成度などを基に調整し決定する。耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会で確認を行う。

なお、研修達成度によっては 1～2 年のサブスペシャル領域重点研修も可能である。

１２　専攻医の評価時期と方法　[整備基準 17.19-22]

（１）耳原総合病院臨床研修センターの役割

◇耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を行う。

◇耳原総合病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について内科学会 J-Osler の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認する。

◇3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 web 版への記入を促す。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。

◇6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促す。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。

◇6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡する。

◇年に複数回(8 月と 2 月、必要に応じて臨時に)、専攻医自身の自己評価を行う。その結果は内科学会 J-Osler を通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促す。

◇臨床研修センターは、多職種による 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）行う。担当指導医、サブスペシャリティ上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価する。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価する。評価は無記名方式で、臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、内科学会 J-Osler に登録する(多職種はシステムにアクセスしない)。その結果は内科学会 J-Osler を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行う。

◇日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応する。

（２）専攻医と担当指導医の役割

◇専攻医 1 人に 1 人の担当指導医が耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会により決定される。

◇専攻医は web にて内科学会 J-Osler にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行いフィードバックの後にシステム上で承認をする。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行う。

◇専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、40 症例以上の経験と登録を行うようにする。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、80 症例以上の経験と登録を行うようにする。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、120 症例以上の経験の登録を修了する。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認する。

◇担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握する。専攻医はサブスペシャリティの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談する。担当指導医とサブスペシャリティ上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整する。

◇担当指導医はサブスペシャリティ上級医と協議し、知識、技能の評価を行う。

◇専攻医は、専門研修（専攻医）2 年次修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、内科学会 J-Osler に登録する。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要がある。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理(アクセプト)されるように改訂する。これによって病歴記載能力を形成的に深化させる。

（３）評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科専門研修委員会で検討する。その結果を年度ごとに耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認する。

（４）修了判定基準　[整備基準 53]

１）担当指導医は、内科学会 J-Osler を用いて研修内容を評価し、以下ｉ）～ⅵ）の修了を確認する。

ｉ）主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができる）を経験することを目標とする。その研修内容を内科学会 J-Osler に登録する。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の

1 割まで含むことができる）を経験し、登録が済んでいること。（別表 1「各年次到達目標」参照）。
ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）
iii）所定の 2 編の学会発表または論文発表
iv）JMECC 受講
v）プログラムで定める講習会受講
vi）内科学会 J-Osler を用いて多職種による 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性が認められる。

2）耳原総合病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行う。

（5）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備
「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画(FD)の実施記録」は、内科学会 J-Osler を用いる。
なお、「耳原総合病院内科専攻医研修マニュアル」と「耳原総合病院内科専門研修指導者マニュアル」と別に示す。

１３　専門研修管理委員会の運営計画　[整備基準 34.35.37-39]（P33 参照）

①　耳原総合病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
1）内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。
　内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（総合内科専門医かつ指導医）、研修実務責任者、事務局代表者、内科サブスペシャリティ分野の研修指導責任者および連携施設担当委員で構成される。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（資料「耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）。耳原総合病院内科専門研修管理委員会の事務局を、耳原総合病院臨床研修センターにおく。

2）耳原総合病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置する。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、 毎年 2 回開催する耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席する。
　基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、耳原総合病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行う。
1）前年度の診療実績
　a）病院病床数、b）内科病床数、c）内科診療科数、d）1 か月あたり内科外来患者数、e）1 か月あたり内科入院患者数、f）剖検数
2）専門研修指導医数および専攻医数
　a）前年度の専攻医の指導実績、b）今年度の指導医数/総合内科専門医数、c）今年度の専攻医数、d）次年度の専攻医受け入れ可能人数。
3）前年度の学術活動
　a）学会発表、b）論文発表
4）施設状況
　a）施設区分、b）指導可能領域、c）内科カンファレンス、d）他科との合同カンファレンス、e）抄読会、f）机、g）図書館、h)文献検索システム、i）医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、 j）JMECC の開催
5）サブスペシャリティ領域の専門医数
　日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、
　日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、
　日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、
　日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

１４　プログラムとしての指導者研修（FD）の計画　［整備基準 18.43］

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用する。
厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨する。
指導者研修（FD）の実施記録として、内科学会 J-Osler を用いる。

１５　専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）　［整備基準 40］

労働基準法や医療法を順守することを原則とする。
専攻医は、その研修を行う研修施設の就業環境に基づき就業する。

基幹施設である耳原総合病院の整備状況
◇研修に必要な図書室と院内 Wi-Fi を用いたインターネット環境がある。
◇医中誌、medical on-line、UpToDate の利用が可能である。
◇文献取り寄せの費用については年 10,000 円までは病院が負担する。
◇自己研鑽費保障制度を設けており、年 100,000 円までの学会出張費、年会費等は病院が負担する。
◇耳原総合病院常勤医師として労務環境が保障されている。
◇メンタルストレスに適切に対処する部署（法人中央労働安全衛生委員会）がある。
◇ハラスメント委員会が同仁会本部に整備されている。（法人ハラスメント委員会）
◇女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室等が整備されている。
◇敷地に隣接して院内保育所があり、利用可能である。
◇専門研修施設群の各研修施設の状況については、資料「耳原総合病院内科専門研修施設群」を参照。

また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図る。

１６　内科専門研修プログラムの改善方法　［整備基準 48-51］

①　専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価
内科学会 J-Osler を用いて無記名式逆評価を行う。逆評価は年に 1 回以上行う。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行う。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧する。また集計結果に基づき、耳原総合病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てる。

②　専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス
専門研修施設の内科専門研修委員会、耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は内科学会 J-Osler を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握する。把握した事項については、耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討する。
１）即時改善を要する事項
２）年度内に改善を要する事項
３）数年をかけて改善を要する事項
４）内科領域全体で改善を要する事項
５）特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とする。

◇担当指導医、施設の内科研修委員会、耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は内科学会 J-Osler を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、耳原総合病院内科専門研

修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して耳原総合病院内科専門研修プログラムを評価する。
◇担当指導医、各施設の内科研修委員会、耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は内科学会 J-Osler を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てる。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てる。

③　研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

耳原総合病院臨床研修センターと耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会は、耳原総合病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応する。 その評価を基に、必要に応じて耳原総合病院内科専門研修プログラムの改良を行う。

耳原総合病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告する。

１７　専攻医の募集及び採用の方法　［整備基準 52］

本プログラム管理委員会は、website での公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集する。

翌年度のプログラムへの応募者は、耳原総合病院臨床研修センターの website の耳原総合病院医師募集要項（内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募する。書類選考および面接を行い、耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知する。

＜問い合わせ先＞耳原総合病院　臨床研修センター

担　　当：西川暉己　E-mail:kenshu-1@mimihara.or.jp
代表番号：072-241-0501
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.mimihara.or.jp/ms/index.html

耳原総合病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく内科学会 J-Osler にて登録を行う。

１８　内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件　［整備基準 33］

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムへの移動が必要になった場合には、適切に内科学会 J-Osler を用いて耳原総合病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証する。これに基づき、耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認める。他の内科専門研修プログラムから耳原総合病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様である。

他の領域から耳原総合病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに耳原総合病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、内科学会 J-Osler への登録を認める。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定による。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム修了要件を満たしていれば、 休職期間が 6 か月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとする。これを超える期間の休止の場合は、 研修期間の延長が必要である。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算(1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とする)を行なうことによって、研修実績に加算する。

留学期間は、原則として研修期間として認めない。

耳原総合病院内科専門研修施設群

表１　各研修施設の概要

	非シーリング	病院名	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹	○	耳原総合病院	386	277	8	15	10	8
連携	○	大阪公立大学医学部附属病院	965	234	12	90	75	11
連携	○	大阪労災病院	678	205	6	16	26	6
連携	○	近畿大学病院	800	315	9	74	40	10
連携	○	愛媛大学医学部附属病院	621	152	16	43	34	2
連携	○	神戸市立医療センター中央市民病院	768	241	10	39	44	21
連携	○	滋賀医科大学医学部付属病院	603	161	8	58	54	13
連携	○	西淀病院	218	218	5	4	9	5
連携	○	コープおおさか病院	166	-	6	5	5	0
連携	○	土庫病院	199	126	6	4	2	4
連携	○	尼崎生協病院	199	-	9	2	1	4
連携		和歌山生協病院	149	76	6	1	3	1
連携	○	健生病院	282	132	5	5	5	1
連携	○	あおもり協立病院	260	150	7	3	3	4
連携	○	利根中央病院	253	105	12	7	5	6
連携	○	長野中央病院	322	211	7	6	6	9
連携	○	近畿中央呼吸器センター	365	-	8	20	17	1
連携		京都民医連中央病院	411	295	13	18	18	6
連携	○	坂総合病院	357	184	10	15	12	6
連携	○	勤医協中央病院	450	260	9	17	16	8
連携	○	ツカザキ病院	406	90	4	8	8	5
連携	○	みどり病院	108	95	12	3	6	0
連携	○	下越病院	261	230	7	8	8	2
連携	○	香芝生喜病院	241	81	6	4	4	1
連携	○	埼玉協同病院	399	184	10	9	10	10
連携	○	西宮渡部心臓脳血管センター	120	70	4	0	1	0
連携	○	医療生活わたり病院	196	89	8	1	3	0
連携		宇治徳洲会病院	535	185	13	11	15	3
連携	○	済生会中津病院	570	326	9	25	23	1
連携	○	鳥取生協病院	260	103	7	4	4	1
連携	○	湘南鎌倉総合病院	669	321	15	45	29	15
連携	○	水戸協同病院	372	160		14	13	7
連携		千鳥橋病院	350	281	6	6	7	8

連携	○	船橋二和病院	266	118	4	5	4	3
連携	○	淀川キリスト病院	581	265	11	29	35	5
連携	○	兵庫医科大学病院	897	283	10	58	59	9
連携	○	松本協立病院	199	152	5	5	11	1
連携	○	仙台厚生病院	409	300	5	21	21	9
連携		立川相互病院	291	134	11	18	14	17
連携	○	浦添総合病院	334	160	6	15	9	2
連携	○	新潟大学医歯学総合病院	827	191	10	88	84	6
連携	○	姫路医療センター	405	209	7	14	20	1
特別	○	東大阪生協病院	99	－	5	－	－	－
特別	○	吉田病院	312	－	4	－	－	－
特別	○	おかたに病院	150	－	－	－	－	－
特別	○	高砂クリニック	0	0	－	1	1	－
特別	○	のざと診療所	0	0	－	－	－	－
特別	○	神戸協同病院	152	－	－	－	－	－

表２　各研修施設の内科１３領域の研修可能性

病院名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	膠原病リウマチ	腫瘍	感染症	救急
耳原総合病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○
大阪公立大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪労災病院	○	○	○	○	○	○	△	×	○	△	△	○	○
近畿大学病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	△
愛媛大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立医療センター中央市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三重大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
滋賀医科大学医学部付属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
西淀病院	○	○	△	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○
コープおおさか病院	○	○	△	○	○	○	○	△	△	△	○	△	○
土庫病院	○	○	○	○	○	○	○	×	△	×	×	△	○
尼崎医療生協病院	○	○	△	○	○	△	○	△	△	○	△	△	○
和歌山生協病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
健生病院	○	○	○	×	△	△	△	△	○	×	△	△	○
あおもり協立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
利根中央病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○
長野中央病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	×	○

近畿中央呼吸器センター	○	×	×	×	×	×	○	×	×	△	×	○	○
京都民医連中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
坂総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
勤医協中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ツカザキ病院	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	△	○
みどり病院	○	×	○	×	×	○	○	×	×	×	○	×	×
下越病院	○	○	○	×	×	○	○	×	○	×	×	×	○
香芝生喜病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	△	△	○	○
埼玉協同病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西宮渡辺心臓脳血管センター	△	×	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	○
東大阪生協病院	○	○	△	×	△	△	○	×	○	×	×	○	○
医療生活わたり病院	○	○	○	△	△	△	△	×	○	△	△	△	○
宇治徳洲会病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
済生会中津病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥取生協病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○
湘南鎌倉総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水戸協同病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
千鳥橋病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	△	○	○
船橋二和病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○
淀川キリスト病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
浦添総合病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○
立川相互病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	△	○	○	○
松本協立病院	○	○	○	△	△	○	○	△	○	△	△	○	○
仙台厚生病院	○	○	○	△	○		○	○	△	○	○	○	○
新潟大学医歯学総合病院	△	×	×	×	×	○	×	×	×	○	○	△	△
姫路医療センター	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○、△、×）に評価
〈○：研修できる　　△：時に研修できる　　×：ほとんど研修できない〉

専門研修施設群の構成要件　［整備基準 25］

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須である。耳原総合病院内科専門研修施設群研修施設は大阪府堺市医療圏、その近隣医療圏、および複数の医療機関から構成されている。

耳原総合病院は、大阪府堺市医療圏の急性期病院であるとともに、地域医療支援病院として病診連携、病病連携の中核的な役割を果たしている。一方で、地域に根差した第一線の医療機関でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者さんの診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携も経験できる。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

研修ローテート科、施設の選択は、原則 3 カ月前までに、専攻医の希望・将来像、研修目標達成度などを基に調整し決定する。耳原総合病院内科専門研修プログラム管理委員会で確認を行う。

なお、研修達成度によってはサブスペシャル領域重点研修も可能である。

専門研修施設群の地理的範囲 ［整備基準 26］

耳原総合病院内科専門研修施設群は、地域医療を担う医師養成を行うため大阪府堺市医療圏の他、その近隣医療圏、および奈良県、兵庫県、和歌山県、京都府、三重県、青森県、群馬県、長野県、愛媛県、北海道、宮城県、新潟県、埼玉県、福島県、鳥取県、滋賀県、神奈川県、千葉県、福岡県、茨木県の医療機関から構成している。

1）専門研修基幹施設

耳原総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室と院内 Wi-Fi を用いたインターネット環境があります。 ・耳原総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。（法人中央労働安全衛生委員会） ・ハラスメント委員会が同仁会本部に整備されています。（法人セクハラ委員会） ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地に近接して院内保育所があり、利用可能です。（月曜～日曜まで対応）
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 15 名在籍しています。　・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。　・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。　・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2027 年度開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。　・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。　・特別連携施設の専門研修では、電話や耳原総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23・31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ・学術委員会を設置し、年報、医報の発行を行います。 ・すでにリサーチに取り組んでいる部署のひとつとして、HPH 委員会があり、2014 年～2015 年まで連続して国際 HPH カンファレンスでの発表を行っています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上（2022 年度実績 10 演題）の学会発表をしています。
指導責任者	川口真弓
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会専門医 4 名（指導医 1 名） 日本循環器学会専門医 5 名（指導医 2 名） 日本インターベンション学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名（指導医 1 名） 日本腎臓病学会専門医 2 名（指導医 2 名）ほか
外来・入院患者数	外来患者 11,166 名（平均延数／月）入院患者 11,213 名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度内科専門医教育病院 日本消化器病学会関連施設　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設　日本神経学会認定準教育関連施設　日本救急医学会救急科専門医指定施設

	日本消化器内視鏡学会指導施設　日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設　日本心血管インターベンション治療学会研修施設　など

2）専門研修連携施設

大阪公立大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	・臨床研修指定病院（基幹型研修指定病院）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪公立大学医学部附属病院前期研究医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生担当）があります。 ・ハラスメント委員会が大阪公立大学に整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 90 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 11 回、感染対策 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度剖検実績　11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績　12 演題）をしています。
指導責任者	繪本　正憲（大阪公立大学内科連絡会教授部会会長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　大阪公立大学は大阪府内を中心とした近畿圏内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数・専門医数（内科系）（常勤医）	日本内科学会指導医 90 名，日本内科学会総合内科専門医 79 名， 日本消化器病学会消化器専門医 28 名，日本循環器学会循環器専門医 14 名， 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 6 名，日本腎臓病学会専門医 7 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 16 名，日本血液学会血液専門医 14 名， 日本神経学会神経内科専門医 6 名，日本消化器内視鏡学会専門医 22 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）4 名，日本リウマチ学会専門医 5 名， 日本感染症学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 9 名， 日本老年学会老年病専門医 1 名，日本肝臓学会肝臓専門医 8 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 148,884 名（2025 年度　延べ数） 入院患者　80,445 名（2025 年度　延べ数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会認定施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本腎臓学会研修施設、 日本アレルギー学会認定教育施設、 日本消化器内視鏡学会認定指導施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本老年医学会認定施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、 日本透析医学会認定医制度認定施設、 日本血液学会認定研修施設、 日本神経学会認定教育施設、 日本脳卒中学会認定研修教育病院、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、 日本東洋医学会研修施設、 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、 日本肥満学会認定肥満症専門病院、 日本感染症学会認定研修施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、 ステントグラフト実施施設、 日本認知症学会教育施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本リウマチ学会認定教育施設など

大阪労災病院

1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。•研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 •独立行政法人労働者健康安全機構の非常勤医師として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 •ハラスメント委員会が院内に整備されています。•女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。•敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	•指導医は 16 名在籍しています（下記）。 •内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長・腎臓内科部長）、プログラム管理者（副院長・循環器内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。•医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 44 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。•研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。•CPC を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型のカンファレンス（基幹施設：堺循環器懇話会、南大阪心疾患治療フォーラム、南大阪不整脈研究会、SAKAI CKD Community、堺腎疾患懇話会、堺糖腎会、堺和泉糖尿病懇話会、南大阪臨床栄養研究会、大阪南インスリン治療フォーラム、南大阪消化器病懇話会など； 2025 年度実績 42 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。•70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）につい

	て研修できます（上記）。　・専門研修に必要な剖検（2025 年度 6 体、2024 年度 7 体）を行っています。
4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています。・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2025 年度実績 11 回）しています。・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 19 演題）をしています。
指導責任者	山内　淳　【内科専攻医へのメッセージ】 大阪労災病院は、大阪府南大阪医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、日本消化器病学会消化器指導医 8 名、日本内分泌学会指導医 9 名、日本人間ドック学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 3 名、日本腎臓学会指導医 3 名、日本老年医学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 5 名、日本超音波医学会指導医 1 名、日本高血圧学会指導医 1 名、日本肝臓学会指導医 6 名、日本透析医学会指導医 3 名、日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名、日本神経学会神経内科指導医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 32,880 名（1 ヶ月平均）　入院患者 16,776 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　日本老年医学会認定施設　日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設　日本腎臓学会研修施設　日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設　日本精神神経学会研修施設　日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本糖尿病学会認定教育施設　日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院　日本神経学会認定准教育施設　など

近畿大学病院

1)専攻医の環境	・基幹型臨床研修病院（初期臨床研修）に指定されています。 ・研修に必要な図書館、自習室、個人机、インターネット環境を完備しています。 ・近畿大学病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生管理センター）があります。 ・近畿大学学園にハラスメント委員会（近畿大学ハラスメント全学対策委員会）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備しています。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 74 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会と連携しています。 ・基幹施設内において専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・専攻医に対し、医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・専攻医に対し、関連診療科との合同カンファレンスを定期的に主催し、出席を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査には、総合医学教育研修センターが対応します。 ・連携施設での専門研修期間中は、基幹施設の担当指導医（メンター）が面談やカンファレンスなどにより研修進捗状況の確認を行います。

3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち全疾患群について研修できます。 ・内科系で年間約 10 件の剖検を行っています。
4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書館、自習室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会において年間約 10 演題、内科系学会において年間約 400 演題の学会発表を行っています。
指導責任者	平野　牧人（脳神経内科教授）
指導医など（常勤医） （2023 年 4 月現在）	総合内科専門医：40 名、消化器病専門医：13 名、肝臓専門医：17 名、 循環器専門医：9 名、内分泌専門医：9 名、腎臓専門医：7 名、糖尿病専門医：9 名、呼吸器専門医：8 名、 血液専門医：13 名、神経内科専門医：12 名、アレルギー専門医：8 名、リウマチ専門医：9 名、感染症専門医：2 名、老年専門医：3 名、ほか。
外来・入院患者数（年間）	内科系外来患者数 17,441 人/月(延数・1 ヶ月平均) 内科系入院患者数 797 人/月(延数・1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、 日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、 日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本老年医学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本血液学会認定研修施設、 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、 日本大腸肛門病学会専門医修練施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、 日本透析医学会認定医制度認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、 日本神経学会専門医研修施設、日本内科学会認定専門医研修施設、 日本老年医学会教育研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本東洋医学会研修施設、ICD/両室ペーシング植え込み認定施設、 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本感染症学会認定研修施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設、ステントグラフト実施施設など

愛媛大学医学部附属病院

1)専攻医の環境	専攻医が心身とも充実して研修できるよう勤務時間，休暇，当直，給与等の勤務条件に関しては，専攻医の就業環境を整えることを重視します． 労働基準法を順守し，愛媛大学医学部附属病院の「専攻医就業規則及び給与規則*」に従います．専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します．特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います．専攻医は採用時に上記の労働環境，労働安全，勤務条件の説明を受けることとなります．プログラム管理委員会では各施設における労働環境，労働安全，勤務に関して報告され，これらの事項について総括的に評価します．
2)専門研修プログラムの環境	○専門研修 1 年 症例：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち，20 疾患群以上を経験し，専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録することを目標とします． 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします． 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います． ○専門研修 2 年

	疾患：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち，通算で 45 疾患群以上を（できるだけ均等に）経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録することを目標とします． 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします． 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います．専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします． 〇専門研修 3 年 疾患：主担当医として，カリキュラムに定める全 70 疾患群，計 200 症例の経験を目標とします．但し，修了要件はカリキュラムに定める 56 疾患群，そして 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）とします．この経験症例内容を専攻医登録評価システム（J-OSLER）へ登録します．既に登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます． 技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができるようにします． 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います．専門研修 2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，基本領域専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります．
3)診療経験の環境	2）に記載
4)学術活動の環境	筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表（症例報告）を積極的に推進し、指導を行います。
指導責任者	竹中克斗（第 1 内科・教授）、山口修（第 2 内科・教授）、日浅陽一（第 3 内科・教授）、 高田康徳（糖尿病内科・教授）、大八木保政（脳神経内科・教授）、永井将弘（臨床薬理神経内科・特任教授）、阿部雅則（地域医療学・総合診療学・教授）、熊木天児（総合臨床研修センター・教授）
指導医など （常勤医）	約 35 名（2023 年 4 月現在）
外来・入院患者数（年間） （2025 年度実績）	年間初回新規入院患者数 約 1~~3~~4,000 名、 年間新規外来患者数 約 1~~3~~1,000 名
経験できる疾患群	総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝腎臓、呼吸器、血液、 神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急
経験できる技術・技能	専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など) 専門研修３年目には内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができるよう指導を行います。
経験できる地域医療・診療連携	各診療科の関連病院において地域医療・診療連携を研修することが出来ます。
学会認定施設 （内科系）	内科学会、呼吸器学会、循環器学会、腎臓学会、血液透析学会、消化器学会、糖尿病学会、神経内科学会など

神戸市立医療センター中央市民病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸市立医療センター中央市民病院の任期付正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対応出来るよう相談窓口(市役所)を設置しています。 ・ハラスメントの防止及び排除並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合、迅速かつ適切な問題解決を図るためハラスメント相談窓口及びハラスメント防止対策委員会を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 38 名在籍しています(下記)。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(医療安全:6 回、感染対策:2 回、医療倫理:1 回)し、 専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2025 年度実績 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(腹部超音波カンファレンス、びまん性肺疾患勉強会、がんオープンカンファレンス、緩和ケアセミナー など 2025 年度実績 32 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2023 年度実績 27 体、2024 年度実績 25 体、2025 年度実績 21 体)を行っています。
4)学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室、学術支援センターなどを設置しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究推進センターを設置しています。 ・定期的に IRB、受託研究審査会を開催(2025 年度実績各 12 回)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2024 年度実績 8 演題)をしています。
指導責任者	古川 裕 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の診療体制の大きな特徴は、北米型 ER(救命救急室)、つまり 24 時間・365 日を通して救急患者を受け入れ、ER 専任医によって全ての科の診断および初期治療を行い、必要に応じて各専門科にコンサルトするというシステムにあります。年間の救急外来患者数は 27,000 人以上、救急車搬入患者数も 8,000 人を超え、独立した救急部と各科スタッフ、初期研修医、専攻医が緊密に連携して、軽傷から重症までのあらゆる救急患者に対応しています。この中で専攻医は初期研修から各科の専門的診療に至る過程で重要な役割をはたしており、皆さんがどの診療科を選択しても、大学病院など 3 次救急に特化した施設では得られない、医療の最前線の広範な経験を重ねることができます。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 39 名 日本内科学会総合内科専門医 44 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名 日本アレルギー学会専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 6 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名 日本感染症学会専門医 4 名 日本腎臓学会専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名 日本呼吸器学会老年病専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 8 名 日本肝臓学会肝臓専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 8 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 6 名 日本救急医学会救急科専門医 17 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 34,980 名(1 ヶ月平均)2025 年度 入院患者 20,318 名(1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム 基幹施設 日本老年医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会指定研修施設 呼吸器専門研修プログラム 基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設

	経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本感染症学会研修施設 日本環境感染学会教育施設 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士実地修練認定教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本禁煙学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本臨床腫瘍内科学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門研修施設 救急科専門医指定施設　など

滋賀医科大学医学部付属病院

1)専攻医の環境	専攻医の勤務時間, 休暇, 当直, 給与等の勤務条件に関しては, 専攻医の就業環境を整えることを重視します. 労働基準法を順守し, 滋賀医科大学の「就業規則及び給与規則」および連携施設の「就業規則及び給与規則」に従います. 専攻医の心身の健康維持への配慮については滋賀医大病院の研修委員会と保健管理センターおよび各施設の研修委員会で管理します. 専攻医は採用時に上記の労働環境, 労働安全, 勤務条件の説明を受けることとなります. プログラム管理委員会では各施設における労働環境, 労働安全, 勤務に関して報告され, これらの事項について総括的に評価します.
2)専門研修プログラムの環境	専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 2 つのコース, ①内科基本コース, ②各科重点コースを準備しています. Subspecialty が未決定, または総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します. 専攻医は, 3 年間で各内科を 3 ヶ月毎にローテート、また内科臨床に関連ある救急部門などを1ヶ月毎にローテートします. 将来の Subspecialty が決定している専攻医は各科重点コースを選択し, 各科を原則として 1 ヶ月毎にローテーションします. 基幹施設である滋賀医大病院での 1 年以上の研修が中心になるが, 関連施設での研修は必須であり, 原則 1 年間はいずれかの関連施設で研修します. 連携施設では基幹施設では経験しにくい領域や地域医療の実際について学ぶことができます.
3)診療経験の環境	内科基本コースと各科重点コースの選択が可能です。 1) 内科基本コース　高度な総合内科(Generality)の専門医を目指す場合や, 将来の Subspecialty が未定な場合に選択します. 内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり, 専攻医研修期間の 3 年間において内科領域を担当する全ての科をローテーションします. 原則として 3 ヶ月を 1 単位として, 1 年間に 4 科, 2 年間で延べ 7 科をローテーションし, また、希望により腫瘍内科、皮膚科、整形外科、救急・集中治療部、総合診療部、病理診断科など 1 ヶ月単位で研修が可能です。3 年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します. 研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上, プログラム管理委員会が決定します. 2) 各科重点コース 希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコース(内科専門研修と Subspecialty 専門研修の連動研修:並行研修)です. 研修開始直後の 3 ヶ月間は希望する Subspecialty 領域にて初期トレーニングを行います. この期間, 専攻医は将来希望する内科において理想的医師像とする指導医や上級医師から, 内科医としての基本姿勢のみならず, 目指す領域での知識, 技術を学習することにより, 内科専門医取得への Motivation を強化することができます. その後, 原則として 1 ヶ月間を基本として他科をローテーションします. 研修 2 年目には原則 1 年間, 連携施設における内科研修を継続し, 研修 3 年目には、滋賀医大病院あるいは連携施設において Subspecialty 領域を重点的に研修するとともに, 充足していない症例を経験します. 滋賀県内で十分な研修が行えない領域については、国立がん研究センター中央病院など県外の連携病院における Subspecialty 研修も可能です。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上, 希望する Subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します. なお, 研修中の専攻医数や進捗状況により, 初年度から連携施設での Subspecialty 研修を行うことや、subspecialty 研修と内科専門研修を平行して行う場合がありますが, あくまでも内科専門研修が主体であり, Subspecialty 研修は最長 2 年間相当としますが、内科専門研修と Subspecialty 専門研修の連動研修:並行研修を 3 年間の内科研修期間を通して行うことも可能です。また, 専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は, 本コースを選択の上, 担当教授と協議して大学院入学時期を決定します.
4)学術活動の環境	患者から学ぶという姿勢を基本とし, 科学的な根拠に基づいた診断, 治療を行います(evidence based medicine の精神). 最新の知識, 技能を常にアップデートし, 生涯を通して学び続ける習慣を作ります. また, 日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため, 症例報告あるいは研究発表を奨励します. 論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり, 内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます. 研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い, 学識を深め, 国際性や医師の社会的責任について学びます. ①内科領域の救急, ②最新のエビデンスや病態・治療法について専攻医対象のランチタイムセミナーやイブニングセミナーが開催されており, それを聴講し, 学習します. 内科系学術集会, JMECC(内科救急講習会)等においても学習します. 担当指導医は, プログラム管理委員会と協働して, 6 ヶ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
指導責任者	統括責任者 久米 真司、 研修委員長 岩佐 磨佐紀 【内科専攻医へのメッセージ】 当研修プログラムでは、滋賀県南部医療圏の中心的な急性期病院で済生会滋賀県病院とその周辺にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行います. これらの研修で、内科全域を幅広く研鑽しかつ先進的医療にも触れ、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します.　主担当医として、入院から退院後〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成を目指します.　救命救急センターを中心とした高度急性期医療では、ドクターカーによるプレホスピタルケアも含め経験が可能です. 2015 年には、がんセンターが開設され、質の高いがん診療を経験できま

	す. 各診療科の仕事をサポートする様々な多職種チームが活発に活動しており、チーム医療への理解を深め活用方法を学べます. 認知症ラウンドや臨床倫理コンサルテーション、医療-介護連携カンファレンス、ICT を利用した病院間の情報連携・在宅療養連携など、院内外にわたり時代のニーズに合致した最先端の診療連携体制を敷いています. 専門医取得支援制度や医師の事務作業補助体制が充実しており、専門診療や学会活動を支援する環境が整っています.
指導医など	58名(常勤医)（2025 年 4 月現在）
患者数	外来 98,409 人、入院 53,596 人(2025 年度実績) 延べ人数
経験できる疾患群	内科専門研修カリキュラムに掲載されている主要な疾患については, 滋賀医大病院(基幹施設)のDPC病名を基本とした各内科診療科における疾患群別の入院患者数(H27 年度)を調査し, ほぼ全ての疾患群が充足されることが解っています(外来での経験を含める)
経験できる技術・技能	豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で, 内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて, 標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します. 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し, 知識, 技能の評価を行います. 目標達成度の最終評価を、専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して行います.
経験できる地域医療・診療連携	地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医):地域において常に患者と接し, 内科慢性疾患に対して, 生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します. 地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します. 研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上, プログラム管理委員会が決定します. 以下の滋賀県内連携施設、特別連携施設は全て地域医療を担当しており、研修そのものが地域医療への参加経験となります。 大津赤十字病院、市立大津市民病院、淡海医療センター、済生会滋賀県病院、滋賀県立総合病院、近江八幡市立総合医療センター、彦根市立病院、市立長浜病院、地域医療機能推進機構滋賀病院、野洲病院、公立甲賀病院、国立病院機構東近江総合医療センター、豊郷病院、湖東記念病院、東近江市立能登川病院(subspecialist 研修)、長浜赤十字病院、高島市民病院、国立病院機構紫香楽病院、済生会守山市民病院、甲南病院、友仁山崎病院(subspecialist 研修)、ヴォーリズ記念病院(緩和ケア)、近江草津徳洲会病院、南草津病院
学会認定施設（内科系）	循環器、消化器、神経、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、感染症、腫瘍、消化器内視鏡、肝臓、糖尿病、内分泌

西淀病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・西淀病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（医局事務課職員担当）があります. ・ハラスメント委員会が法人本部に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（医局事務課職員担当）があります. ・ハラスメント委員会が法人本部に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 4 名在籍しています（下記）. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施 設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療倫理 7 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的 余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのた めの時間的余裕を与えます. ・CPC を開催（2025 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的 余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績，地域連携学習会 1 回）を定期的に開 催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 5 体）を行っています.
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 5 演題以上の学会発表をしていま す. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 3 回）しています. ・専攻医が国内の学会に参加・発表する機会があり，そのための時間的余裕を与えます.
指導責任者	福島　啓

	【内科専攻医へのメッセージ】 当病院は 218 床の地域密着・健康増進型ケアミックス病院です．一般病棟・地域包 括ケア病棟・回復期リハビリ病棟を有しており，外来は内科二次救急指定・総合外来 として 2045 台/年の救急受け入れ，ウォークインの患者さんも 841 人/月を受け入 れています．家庭医療専門医・総合内科専門医が地域総合内科としてチームを組んで 診療・研修指導に当たっており，大規模病院とは違った虚弱高齢者，生活困窮者，未 分化な健康問題に対応するトレーニングを行う場としては最適と考えています．
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 4 名 日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 日本消化器病学会専門医 3 名 日本循環器学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本腎臓学会専門医 1 名 日本透析医学会専門医 1 名 日本肝臓学会専門医 1 名 日本専門医機構内科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者約 1011 名（1 ヶ月平均） 新入院患者約 255 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち， きわめて稀な疾患を除 いて幅広く経験できます．特に，消化器，代謝，呼吸器分野については common な疾患・ 病態を数多く経験できます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づ きながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期に限らず，地域に根ざした多職種連携の医療を経験できます．地域の診療所や 訪問看護ステーション，介護事業所などとの連携で，患者さんの生活を支える医療を 経験できます．希望者には診療所外来や訪問診療の研修も可能です．専門的な診断・ 治療が必要な疾患については近隣の高次医療機関と連携しています．
学会認定施設（内科系）	日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会研修関連施設 日本糖尿病学会教育施設Ⅰ 日本消化器病学会関連施設

コープおおさか病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・期間に応じて常勤医師または非常勤医師として適切な労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するため、外部臨床心理士と委託契約があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 5 名在籍しています。 ・研修委員会にて、基幹施設に設置されている内科専門研修プログラム管理委員会、プログラム管理者との連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績各 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に基幹施設が開催する JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます。
4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 1 回）しています。

	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表（2025 年度実績１演題）をしています。
指導責任者	向井明彦 【内科専攻医へのメッセージ】 コープおおさか病院は大阪市東部医療圏にある 166 床の中小病院です。当院には、いわゆる common diseaze を抱えた患者さんが多数入院されています。また、高齢者に特有の multiple morbidity（多疾患罹患）を抱えた患者さんも多数おられます。外来では、まだ診断のついていない患者さんが救急外来や初診外来に多数来院されます。当院の外来や入院患者で専門的な治療が必要と判断されれば、多くの患者さんは地域の中核病院に紹介しております。また、当院には膠原病リウマチ専門医がおり、その分野での疾患が豊富に研修できます。院内の連携としては、内科と外科、内科と泌尿器科の垣根が低く、例えば急性胆のう炎や急性腎盂腎炎を共観する場面もよく見られます。また他職種との連携も重視した医療を行っていますので、その実態も経験できると考えています。主治医としてしっかりと患者さんとかかわっていただくことを、私たちは全力でサポートさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名 、日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名、日本内分泌学会専門医 1 名、 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医２名ほか
外来・入院患者数	外来患者 3,906 名（1 ヶ月平均）　入院患者 118 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本静脈経腸栄養学会 NST（栄養サポートチーム）稼働施設　など

尼崎医療生協病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・耳原総合病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・期間に応じて常勤医師または非常勤医師として適切な労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務部職員担当）があります。 ・ハラスメントに対応する委員会として、法人衛生委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩スペース、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 2 名在籍しています（下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催〈2014 年度実績　医療倫理 1 回（全職員対象)、医療安全 3 回（全職員対象)、感染対策 11 回（全職員対象、同一内容含む)〉し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を開催（2014 年度実績 1 回、2015 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014 年度実績　総合診療登竜門カンファレンス 3 回、　在宅連携

	カンファレンス 12 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、内分泌、代謝、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 1 演題）を予定しています。
指導責任者	中田均 【内科専攻医へのメッセージ】 尼崎医療生協病院は兵庫県尼崎市西部にあり、一般病床 179 床、緩和ケア 20 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。カリキュラムの特徴として、内科領域での臓器にとらわれない横断的な知識の習得と、社会、心理的状況も含めた幅広い健康問題に対応できる内科総合医としての力を身に付けること、常に最新の知見を身に付け、医療水準の向上をみずから行える力を身に付けることを重視しています。耳原総合病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 304 名（1 ヶ月平均）　　入院患者 301 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	プライマリ・ケア連合学会認定医・専門医研修施設 リウマチ学会認定施設 日本アレルギー学会教育施設 臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

土庫病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・期間に応じて常勤医師または非常勤医師として適切な労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会設置予定です。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・法人敷地内に院内保育所があり、病児保育園も開設しています。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 3 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 3 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、神経および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績　2 演題）をしています。
指導責任者	更谷　勉 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は奈良県大和高田市にあり、199 床の中規模病院で、内科 126 床で運用しています。臓器や疾患を選ばず、患者さん中心の医療・全人的医療をめざし、基本的臨床能力の向上・標準的医療の推進、さらに患者さんの抱える社会的問題への積極的な取り組みを行っています。また消化器病センター（大腸肛門病センター）を有し、近畿圏でも特色ある病院として発展してきました。消化器全般の病気について早期発見から治療・緩和ケアに至るまでの医療を強化しています。カンファレンスも充実しており、新入院、救急症例、総合診療、内視鏡病理、循環器、呼吸器などのカンファレンスを積極的に開催し、自分の受け持ち以外の病態等についても理解を深めることができます。臨床症状の背景に生じている疾患の病態を深く広く理解することを重視したトレーニングを通じて、内科全般の力をつけていきます。
指導医数	日本内科学会指導医 4 名　日本内科学会総合内科専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 215 名（1 ヶ月平均）　入院患者 190 名（1 ヶ月平均延数）内科
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。法人内には在宅療養支援診療所、訪問看護、訪問リハビリ、老健を有し、救急、外来～入院～在宅のシームレスな医療現場で地域医療が研修が可能です。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院，日本循環器専門医研修施設， 日本呼吸器学会関連施設，日本消化器病学会認定施設，日本消化器内視鏡学会 JEP project 参加施設，日本肝臓学会特別連携施設， 日本神経学会専門医准教育施設，日本腎臓学会研修施設，日本透析医学会専門医制度認定施設，日本老年医学会認定施設，日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設， 日本医学会救急科専門医連携施設，日本がん治療認定医機構認定研修施設　など

和歌山生協病院

1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・施設内に研修に必要なインターネットの環境が整備されている。 ・期間に応じて常勤医師または非常勤医師として適切な労務環境が保障されています。 ・育児短時間勤務制度など子育てにも適切な労務環境が保障されている。 ・労働安全衛生などメンタルストレスに適切に対処する環境が整備されている。 ・セクシャルハラスメントの規定が整備され職員に周知されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるが更衣室等が配慮されている。 ・敷地内に院内保育所を有し利用可能である。
2)専門研修プログラムの環境	・　指導医が 1 名在籍しています。また総合内科専門医 3 名、総合診療専門研修特任指導医 3 名、プライマリ・ケア連合学会指導医 3 名、家庭医療専門医 1 名、アレルギー専門医 1 名、脳卒中専門医 1 名、リハビリテーション専門医 2 名、神経内科専門医 1 名、リウマチ・膠原病専門医 1 名で指導にあたります。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、参加の時間保証をします。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全ての分野で専門研修が可能な症例数を診療して

	います。特に、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、アレルギーの分野で多数の症例を経験できます。・専門研修に必要な剖検を行っています。
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、勤務保障・参加費保証があります。
指導責任者	畑　伸弘 【内科専攻医へのメッセージ】和歌山県下で屈指の喘息患者を管理しており、喘息アレルギー診療、呼吸器感染症、慢性呼吸不全の診断・治療・在宅診療などにおいて専攻医の研修に最適です。また、プライマリ・ケア連合学会の研修施設として、循環器や糖尿病、腎不全といった複数の問題を抱えた患者さんの包括的なケアを研修できます。リハビリ専門医との連携で、急性疾患の後のリハビリや、脳血管障害のリハビリなども含め、急性期から在宅医療までの継続的な医療の研修が行えます。
指導医数	日本内科学会専門医　1 名、
外来・入院患者数	外来患者 4548 名（1 ヶ月平均）　入院患者 141 名（1 ヶ月平均）2024 年度実績
経験できる疾患群	1）研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、全ての分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。特に、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、アレルギーの分野で多数の症例を経験できます。急性期から慢性期、リハビリテーション、在宅医療まで継続的な研修が行えます。　2）研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、総合的、包括的な医療を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1）消化器では上部内視鏡　下部内視鏡　血管造影　超音波検査　CT・MRI 診断。 2）呼吸器では気管支鏡　精密睡眠機能検査　呼吸機能　人工呼吸器治療 3）循環器では　超音波検査　脈波　4）腎臓では　血液透析　吸着療法 4）神経では　CT・MR Ｉ診断　脳波検査　神経伝導検査・筋電図　ボトックス治療など 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	月 313 件の訪問診療で終末期の在宅診療など診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設	日本プライマリ・ケア連合学会教育施設　日本リハビリテーション医学会教育施設 日本リウマチ学会教育施設、日本アレルギー学会（内科）準教育施設

健生病院

1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院です。 ・施設内に研修に必要なインターネット環境を整備しています。 ・メンタルストレスに適切に対処するため、基幹施設と連携をとっています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に保育所があり、利用可能です。病院として病児保育を行っています。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 5 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに参画し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。(2022 年度実績 1 回)
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。(2022 年度実績 0 回) ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
指導責任者	竹内一仁 【内科専攻医へのメッセージ】 地域の第一線の病院として、高齢者を中心とした内科診療を経験できます。消化器・循環器の標準治療を中心に、精神科医とともに認知症や精神疾患を合併した患者を診たり、誤嚥性肺炎など他職種チームアプローチでの治療を行ったりと、幅広く経験することができます。 幅広い知識と経験を持ち、地域を支えることが出来る総合内科医を目指してください。
指導医など （常勤医） （2023 年 4 月現在）	日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会専門医 1 名、日本肝臓学会認定肝臓専門医 1 名、日本救急医学会認定救急科専門医 5 名　他
外来・入院患者数 （2022 年度実績）	内科外来患者 253.9 名（1 日平均）（年間） 内科入院患者 97.6 名（1 日平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患のうち、一部の疾患を除く多数の内科疾患について、外来・入院治療を通して、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	外来から訪問診療まで、包括的な地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医教育関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本神経学会専門医准教育施設 日本病理学会病理専門医制度研修登録施設 日本感染症学会認定研修施設　など

利根中央病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・利根保健生活協同組合の常勤職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総合支援センター）があります。 ・監査・コンプライアンス室が（法人総務部）に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 7 名在籍しています（下記)。 ・内科専攻医研修委員会（仮称）を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え

	ます。 ・地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績地元医師会合同症例検討会 2 回、オープン CPC2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 2 体）を行っています。
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表 （2025 年度 実績 2 演題）。 ・倫理委員会を設置し、毎月開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】吉見　誠至 当院は利根沼田地域唯一の総合病院であり、一次救急から内科の各専門領域までさまざまな疾患を経験することができます。総合診療科と内科が連携して内科系の診療にあたっています。当院は各科の垣根が低く、医師同士が相談しやすい環境です。コメディカルも意欲的であり、患者さんを中心としたチーム医療を学ぶのに適しています。平成 27 年度に新病院となり、ハード面でも改善しました。
指導医など　（常勤医）	日本内科学会指導医 7 名 日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本内科学会認定内科医 7 名 日本消化器病学会消化器病専門医 1 名 日本消化器病学会消化器病指導医 1 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医 1 名 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本腎臓学会 腎臓指導医 1 名 日本透析医学会透析専門医 2 名 日本透析医学会 透析指導医 1 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名 日本臨床検査医学会　臨床検査専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本心血管インターベンション治療学会心血管カテーテル治療専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名
（2025 年 4 月現在）	外来患者 194,595 名（2025 年度）　入院患者 86,471 名（2025 年度）
外来・入院患者数	1）研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、感染症および救急等を中心に経験できます。2）研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。
経験できる疾患群	1）山間地域の中核病院として、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、感染症および救急等を幅広く経験できます。）内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる技術・技能	沼田利根医師会および当院法人内各種事業所（診療所、老健施設、歯科診療所、等）と連携した地域医療・診療連携を経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本肝臓学会特別連携施設 日本消化器病学会認定施設

	日本透析医学会教育関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科暫定指導施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本感染症学会連携研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設　など

長野中央病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・今日の臨床サポートなどの参考文献を自由に利用できる環境があります。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 ・ハラスメントに対処するため、就業規則により周知しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室(女性優先)が整備されています。 ・院内保育所・病児保育施設があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 6 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績計 6 回）し、専攻医に受講を促しています。 ・多職種によるカンファレンスを定期開催し、疾患のみならず生活者として患者全体を捉える能力を身に付けられます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 4 回(4 症例)）し、専攻医に参加を義務付けます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、地域の開業医との情報共有や知識の向上につながる環境を作ります。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表をしています。 ・学会費や学会参加に関する費用について法人にて支援し、参加を推奨します。
指導責任者	近藤照貴：総合内科専門医、糖尿病学会・透析医学会・内分泌代謝学会の各指導医
指導医など （常勤医） （2025 年 3 月現在）	日本内科学会指導医 6 名 日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名 糖尿病・透析・内分泌代謝科指導医 1 名 日本消化器病学会専門医 2 名 日本消化器病学会指導医 1 名 呼吸器専門医　1 名
外来・入院患者数	外来患者　7,830 名（月平均）　入院患者　476 名（月平均）(2022 年度実績)
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、７０疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病連携なども経験できます

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本肝臓学会研修関連施設 日本透析医学会教育関連施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本ＰＣ連合学会家庭医専門研修認定施設（Ｖｅｒ．２） 日本専門医機構認定　　内科領域基幹施設 総合診療領域基幹施設

近畿中央呼吸器センター

1)専攻医の環境	初期臨床研修制度連携型研修指定病院です。 ・研修に必要なインターネット環境（電子ジャーナル閲覧可）があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医、管理課労務担当）があります。 ・ハラスメント防止に関する規程が整備されており、相談窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。
2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 11 名在籍しています（下記). ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，呼吸器および感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 2 回）を行っています.
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2025 年度実績 1 演題）をしています. ・臨床研究審査委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 9 回）しています. ・治験管理室を設置し，定期的に治験受託研究審査委員会を開催（2025 年度実績 11 回）しています. ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています.
指導責任者	蓑毛　祥次郎 【内科専攻医へのメッセージ】 近畿中央呼吸器センターは、全国でも屈指の呼吸器専門病院です。基幹施設と連携して内科専門研修を行います。主に呼吸器疾患の診断、治療を含めた全人医療のできる内科専門医の育成を目指します。我々と一緒に学びませんか？熱意と協調性のある方、大歓迎です。
指導医など　（常勤医） （2026 年 4 月現在）	日本呼吸器学会呼吸器指導医　11 人　呼吸器学会呼吸器専門医 19 人 日本感染症学会感染症指導医　2 人　日本感染症学会感染症専門医 2 人 日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医 3 人 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 人　がん治療認定機構がん治療指導医　1 人 がん治療認定医機構がん治療認定医 6 人　日本アレルギー学会専門医 3 人 日本呼吸器内視鏡学会指導医 3 人　日本呼吸器内視鏡学会専門医 10 人 日本内科学会総合内科指導医 11 人　日本内科学会総合内科専門医 21 人 日本緩和医療学会緩和医療専門医　2 人 日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医 2 人 日本サイコオンコロジー学会認定登録精神腫瘍医 2 人 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医･指導医 1 人
外来・入院患者数（年間）	外来患者 4,027 名（平均延数／月）　入院患者 390 名（平均数／月）（2025 年度実績）

経験できる疾患群	1）研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，呼吸器疾患、感染症の内科治療を経験でき，付随するオンコロジーエマージェンシー，緩和ケア治療，終末期医療等についても経験できます． 2）研修手帳の一部の疾患を除き，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，幅広く経験することが可能です．
経験できる技術・技能	1）日本屈指の呼吸器専門病院において，呼吸器疾患の診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），緩和ケア治療，放射線治療，内視鏡検査・治療，など，幅広い呼吸器診療を経験できます． 2）技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育特殊施設 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本病理学会 研修認定施設 日本臨床細胞学会 認定施設など

坂総合病院

認定基準 【整備基準 23】 １）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室：保健師、必要により臨床心理士の相談も受けられます）があります。 ・パワーハラスメント・セクシャルハラスメントの相談窓口が公益財団法人宮城厚生協会本部（総務人事部：坂総合病院の管理棟内に法人本部もある）に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接敷地内に院内保育所（下馬みどり保育園）があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は内科教育病院指導医 15 名、総合内科専門医 12 名、 サブスペシャル専門医 23 名がそれぞれ在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 【以下の教育的講習会等の受講機会を保障しています】 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（基幹施設 2025 年度実績医療倫理 1 回、医療安全・感染対策 22 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを地域参加型として定期的に開催しています（坂病院地域開放カンファランス:2025 年度実績 10 回）。 ・みちのく総合診療医学センターカンファランス（レンジデントデイ月 1 回、ポートフォリオ発表会 年 1 回）にも参加できます。 ・CPC を定期的に開催しています（2024 年度 6 回、2025 年度 6 回）。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に対応します。
認定基準【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に内科専門医資格取得が可能な症例数を診療しています（内科系各科は一般内科としても機能しており、内科全領域にわたって一定の安定した経験が出来ます）。 ・70 疾患群についても同様です。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度 1 体、2025 年度 6 体）を行っています。
認定基準【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室があり、オンライン検索も充実しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度偶数月 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	舩山広幸 （消化器科・内科診療副部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 坂総合病院は、仙台市に隣接する一次医療圏（塩竈・多賀城市等）の唯一の地域医療支援病院として、地域に密着した医療を行っています。東北大学の関連病院の一つとして、40 年以上にわたって、地域医療の場での医師研修を実践・提供し続けてきました。通常の紹介・入院医療においては、第一線の疾病構造を反映した偏りのない経験を積むことができます。かつ、職域健診、友の会の健康増進活動、ER 型の救急医療、充実したリハビリ部門、訪問診療を独自に展開しており、全人的でシームレスな医療を学べる環境にあります。 新制度においても、初期研修中の経験も活用しながら、無理なく必要症例数・範囲をカバーすることができており、循環器・呼吸器（感染症含む）・消化器・糖代謝科などのサブスペシャリティとの並行研修も実績を重ねています。比較的小規模の教育病院として、風通しの良いストレスフリーな専攻医研修生活を約束できますので、ぜひご応募ください。なお、外部の初期研修経験者からの応募も大歓迎で、融通のきくスケジュール調整を行っています。よろしくお願いします。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器病専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 3 名 日本プライマリ・ケア連合学会指導医 2 名、同専門医 1 名、感染症学会専門医 5 名
外来・入院患者数	・年間外来のべ患者 98,499 名　年間入院患者実数 3,344 名（※どちらも内科系）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	坂総合病院は、宮城県仙台医療圏の急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核となっています。歴史的に救急医療に力を入れおり、年間約 3800 台の救急搬入とのべ 9 千人の時間外外来に全科の医師が力を合わせて取り組んできました。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。院内のリハビリテーション部門は、充実した医師・セラピスト体制と専門設備を有し、入院当初から日常的に連携しています。さらに、悪性疾患の緩和ケア含む約 190 名の在宅管理患者の訪問診療も、専門医の指導のもと経験することもできます。

勤医協中央病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院である。 ・施設内に研修に必要な図書やインターネットの環境が整備されている。 ・ 適切な労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署が整備されている。 ・ ハラスメント委員会が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。 ・ 敷地内外を問わず保育施設等が利用可能である。
2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 1 名以上在籍している。 ・ 研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ることができる。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催している。開催している場合には、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・ CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・JMECC を毎年開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。
3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	中野　亮司
指導医など（常勤医）	日本内科学会指導医 17 人、日本内科学会総合内科専門医 16 人、 日本消化器病学会専門医 5 人、日本循環器学会専門医 7 人、 日本呼吸器学会専門医 6 人、日本腎臓病学会専門医 2 人、 日本糖尿病学会専門医 1 人、日本内分泌学会専門医 1 人、 日本リウマチ学会専門医（内科）2 人、日本血液学会専門医 2 人、 日本アレルギー学会専門医（内科）1 人、日本透析医学会専門医 2 人、 日本脳卒中学会専門医 1 人　ほか
外来・入院患者数	総入院患者数；8,371 人　　総外来患者数；110,652 人
経験できる疾患群	総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急
経験できる技術・技能	診断、医療面接、身体診察、専門的検査（手技を伴うもの、判断能力が問われるもの）、治療（薬物治療，応急処置等）とその方針の決定、他の専門医へのコンサルテーション、患者および家族への説明など

経験できる地域医療・診療連携	がん診療連携、地域ﾊﾟｽ協議会、在宅介護ネットワーク、へき地診療研修、災害医療連携など
学会認定施設（内科系）	消化器学会、 消化器内視鏡学会、 循環器学会、 内分泌学会、 糖尿病学会、 腎臓学会、 透析学会、 呼吸器学会、 呼吸器内視鏡学会、 リウマチ学会、 血液学会、 救急学会など

ツカザキ病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院で NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。 ・研修に必要な図書室とオンライン購読可能な書籍を多数用意、個別のインターネット環境を整備、また電子カルテ上で参照可能な診療データベースを利用できます。 ・ツカザキ病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に 24 時間体制の院内託児所があり、24 時間 365 日利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	日本内科学会指導医が 8 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病診・病病連携カンファレンス 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、血液、神経、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 3 演題）を予定しています。
指導責任者	飯田 英隆 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は姫路市西部に位置し、病床数は 406 床で HCU8 床、SCU12 床を有し、播磨姫路医療圏の急性期・救急医療を担っています。地域の 1 次～3 次の救急、および高度専門医療までの幅広い症例を受け入れ、全人的で EBM に基づいた医療を実践し、「患者本位の医療」を行っています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　8 名 日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医・指導医 2 名 日本消化器病学会専門医 5 名・指導医 2 名 日本消化器内視鏡学会専門医 4 名・指導医 1 名 日本消化管学会専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医 1 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医 1 名 日本糖尿病学会専門医・指導医 1 名
外来・入院患者数	2022 年度　内科系外来患者 4,165 名（1 か月平均）　内科系入院患者数 3,083 名（1 か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本神経学会認定准教育施設 日本透析医学会教育関連施設

みどり病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修協力施設（神戸大学）（西神戸医療センター）です。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・みどり病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 3 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて基幹施設、連携施設との連携をはかります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研究事務局を設置します。 ・地域参加型を中心にカンファレンス（心房細動、糖尿病、高血圧等のセミナー、心臓弁膜症オープンカンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な環境を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、適時開催しています。 ・国内外の学会に参加・発表し、症例や臨床研究を和文・英文で論文筆頭者として執筆する機会があります。
指導責任者	足立　和正 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は循環器を中心に幅広い全人的医療を目指しています。心臓血管外科、不整脈のカテーテル治療にも力を入れる一方、在宅医療にも取り組んでいます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名 日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本不正脈心電学会不整脈専門医 1 名 日本消化器病学会専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 1 名 日本呼吸器学会専門医 1 名 日本高血圧学会専門医 1 名（指導医 1 名） 日本血液学会専門医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 2,935 名(平均延数/月)　入院患者 2,482 名(平均数/月)

経験できる疾患群	・内科領域１３分野のうち総合内科、循環器、腎臓、呼吸器で症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、往診等、超高齢社会に対応した診療も経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定　循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会　不整脈専門医研修施設 日本高血圧学会　高血圧認定研修施設

京都民医連中央病院

1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です． ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります． ・医員室（院内 LAN 環境完備）・仮眠室有． ・専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います． ･ハラスメント委員会が整備されています． ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています． ･敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です．
2)専門研修プログラムの環境	･指導医が１１名在籍しています． ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります． ･専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC（2025 年度５回開催)、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します．そのための時間的余裕を与えます．
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています．
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会を含め 2025 年度は計５題の学会発表をしています．
指導責任者	舛田　一哲 宇治徳洲会病院は地域医療と密接に連携した高水準の診療と未来の医療を創造する臨床研究に力を注いでいます．本プログラムの目的は初期臨床研修修了後に病院の内科系診療科が大学病院・地域の協力病院と連携して、総合力にも専門性にも優れた内科医を養成することです．患者中心で質の高い安全な医療を実現するとともに、新しい医療の開発と実践を通して社会に貢献し、専門家の使命と責任を自覚する志高く人間性豊かな医師を育成します．
指導医など　（常勤医） （2026 年 4 月現在）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 15、日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 12 名、不整脈専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 10 名、集中治療専門医 5 名、腎臓内科専門医 2 名
外来・入院患者数（年間） （2025 年度実績）	外来患者 378,064 名　入院患者１78,545 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．

学会認定施設 （内科系）	新専門医制度専門研修プログラム（内科領域）基幹施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本心血管インターベーション治療学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡関連認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設 日本不整脈心電図学会不整脈専門医研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 左心耳閉鎖システム実施施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 など

下越病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。文献検索、uptodate 利用可能です。 ・常勤医師として就業規則により労務環境は整備されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するため、担当事務を配置し逐次的に基幹施設と連携を取ります。 ・ハラスメント委員会を法人に設置し、院内に相談窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、更衣室、シャワー室、当直室(女性専用)を整備しています。 ・院内保育園があり利用可能です。同保育園には新潟市病児保育施設も併設しています。
認定基準 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 8 名在籍しています。 ・下越病院内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている内科研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催、あるいは日本内科学会専門医共通講習 e-learning の受講を促します。 ・専攻医の日常的な状況把握とプログラム運営に関わる研修委員会を設置します。 ・CPC を開催（2025 年度実績 2 回）し専攻医が参加できるよう時間的保障を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、地域の開業医との情報共有や知識の向上につながる環境を作ります。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けます。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、神経および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群の内、35 以上の疾患群について研修可能です。 ・専門研修に必要な剖検数を行います。

認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置しています。 ・医療教育研修センターにて専攻医の学術活動を援助します。 ・2025 年度、日本内科学会と同信越地方会に計 3 演題の学会発表を行いました。 ・学会費や学会参加に関する費用について法人にて支援し、参加を推奨します。
指導責任者	原田　学（消化器内科） 【専攻医へのメッセージ】 当院では以下の理念の下に内科専門研修を提供します。 ①救急や外来医療・入院管理・訪問診療・地域医療などの「臨床」から見えてくる問題に真摯に取り組むことで医療実践能力を身につけること。②医療の専門家として日々進歩する知見や技術を追及し、これを患者様に還元するよう努力すること。③パートナー（コメディカル）とともに患者様を尊重したチーム医療を主体的に行うこと。④プライマリ・ヘルスケアの観点から地域からの医療要求を理解し実践すること。地域で必要な専門的医療を担える内科医になれるよう、一緒に研修に勤しみましょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会　指導医 8 名 日本内科学会　総合内科専門医 8 名 日本内科学会　認定内科医 6 名 日本消化器病学会　消化器病専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会　専門医 6 名 日本消化管学会　胃腸科専門医 3 名 日本循環器学会　循環器専門医 1 名 日本神経学会　神経内科専門医 2 名 日本アレルギー学会　アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会　リウマチ専門医 1 名
外来・入院 患者数	内科系　年間入院患者数　5,370 内科系　１日平均外来患者数　137 名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、神経、救急の分野で症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	消化器分野では腹部エコーや上部内視鏡、下部内視鏡はもとより ERCP や ESD、循環器分野では心臓カテーテル検査・治療が経験可能です。他、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	約 15,000 人の患者会によって支えられる当院では、健康相談会や各種行事などに参加することで、地域に根ざした医療を経験することができます。外来・慢性疾患医療はもとより、在宅医療、福祉や介護との連携を感じることのできる研修が可能です。
学会認定施設 （内科系）	日本専門医機構認定　内科専門研修プログラム基幹施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本循環器学会専門医研修関連施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本神経学会認定准教育施設 日本認知症学会教育施設 日本病態栄養学会認定ＮＳＴ実施施設 日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設 日本専門医機構認定　総合診療専門研修プログラム基幹施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定　家庭医療専門研修プログラム

香芝生喜病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室やインターネットの環境があります。 ・香芝生喜病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が香芝生喜病院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・施設内に院内保育園があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 4 名在籍しています。 ・研修委員会を設置し、専攻医の研修を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で行う CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科・消化器・循環器・感染症・救急で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間 1 演題以上の学会発表をしています。 ・専攻医が国内外の学会に参加・発表し、症例や臨床研究を和文・英文で論文筆頭者として執筆する機会があります。 ・倫理委員会が設置されています。
指導責任者	山上　博一 【内科専攻医へのメッセージ】 香芝生喜病院は奈良県香芝市にある地域に密着した急性期総合病院です。奈良県中和医療圏にある当基幹施設と大阪府下などにある連携施設とで内科専門研修を行い、全人的医療ができ地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医４名・総合内科専門医４名 日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本消化器病学会消化器病専門医５名 日本肝臓学会専門医 1 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名
外来・入院 患者数	外来患者 81，９９２名（2025 年実数） 入院患者名 3,６０４名（2025 年実数）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについても学ぶことができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本高血圧学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化管学会認定指導施設

西宮渡部心臓脳血管センター

1)専攻医の環境	・医局は指導医だけではなく他科の医師も共有しており、コミュニケーションを取りやすい環境を整えています。 ・専攻医用のデスク、休憩ペースを配置しています。医局内にはインターネットへ接続可能なデスクトップコンピューターがあり、Wi-Fi 環境も整えています。 ・心身の健康保持の配慮については各施設の研修管理委員会と労働安全衛生委員会で管理し、特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・福利厚生の一環としてメディカルフィットネスを目的とした運動施設もあり、職員は無料で使用可能です。 ・法人施設内には 2 か所の保育施設を有しており、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・病床数 112 症の中に、ICU・SCU・HCU を有し、循環器疾患、脳卒中をはじめとした急性期疾患を数多く扱っています。急性期だけではなく回復期のリハビリテーションを継続で来る複数のリハビリテーション専門クリニックを有し、急性期から在宅まで一貫して患者をケアするシステムを有しています。 ・本プログラムを履修する内科専攻医の研修については指導責任者が責任を持ち、総合内科専門医・循環器内科専門医・心血管カテーテル治療専門医・救急専門医・集中治療専門医・心臓血管外科専門医・超音波専門医との協力で研修環境を提供します。 ・カテーテル治療手技については集中的に学べる環境を提供します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講していただきます。 ・院外の参加者も含めた多職種カンファレンスを定期的に行っており、専攻医に参加していただきます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に参加していただきます。
3)診療経験の環境	・循環器領域においてすべての疾患を経験することが可能です。 ・心臓血管外科と一つのチームとして診療しているため、心臓血管外科領域の研修も同時に可能で連続した診療を経験できます。 ・循環器疾患、脳外科疾患の専門分野における急性期疾患の救急搬入が多く、幅広く初期対応の経験を積むことができます。 ・院外心肺停止患者に対し、医師を現場に派遣するラッピドレスポンスカーを 24 時間運営し、PCPS を用いた心肺蘇生や低体温療法を積極的に行っています。 ・経験豊富な専門医、指導医（総合内科専門医、心血管カテーテル治療専門医、超音波専門医、脳神経外科専門医、脳神経血管治療専門医、放射線診断専門医）が複数在籍しており、専門的な教育を受けることがあります。 ・最新の CY、3ＴMRＩ、1.5ＴMRＩ、ハイブリッド手術室、超音波装置を用いた画像診断法、カテーテル治療、ハイブリッド室での経皮的大動脈弁留置術（ＴＡＶＩ）や開心術の症例が多く、脳卒中治療や不整脈に対するアブレーション治療も行っています。
4)学術活動の環境	・研修プログラムの一環として内科学会あるいは循環器学会の演題を提出し毎年発表を行っています。 ・2023 年度の後期研修医は学会発表を論文としてまとめ、European Heart Journal Acute Cardiovascular Care にアクセプトされました。

指導責任者	循環器内科部長　波東 大地 【内科専攻医へのメッセージ】 　西宮渡辺心臓脳・血管センターは、西宮周辺地域の心臓脳・血管疾患診療を 24 時間 365 日休むことなく行っています。循環器内科においては、すべての疾患を網羅しており、特に急性期患者が多いことが特徴です。インペラ（INPELLA）補助循環器用ポンプカテーテルや ECMO などの最新の装置があり、不整脈に対するアブレーション治療や TAVI 実施施設でもあります。また、心血管エコーセンターは、ハイスペックな計 6 台の超音波診断装置を有し、高い技術で定評です。
指導医など （常勤医） （2024 年 4 月現在）	日本内科学会（指導医 4 名、総合内科専門医 5 名） 日本循環器学会（専門医 9 名） 日本心臓学会（専門医 1 名） 日本心エコー図学会（専門医 2 名） SHD 心エコー図学会（専門医 1 名） 日本超音波医学会（指導医 2 名、専門医 2 名） 日本心不全学会（専門医 1 名） 日本心血管画像動脈学会（専門医 1 名） 日本心血管インターベーション治療学会（専門医 3 名） 日本核医学会専門医（専門医 1 名） 日本脳神経外科学会（専門医 4 名） 日本脳卒中学会（専門医 2 名） 日本外科学会（指導医 1 名、専門医 6 名） 日本脈管学会（専門医 1 名） 心臓血管外科学会（専門医 5 名） 日本静脈学会（指導医 1 名） 日本血管外科学会（専門医 1 名） 日本胸部外科学会（専門医 1 名） 日本小児外科学会（指導医 1 名、専門医 1 名） 日本小児循環器学会（専門医 1 名） 日本不整脈心電学会（専門医 1 名） 日本救急学会（専門医 1 名） 日本麻酔科学会（専門医 3 名）
外来・入院患者数（年間） （202３年度実績）	外来患者　3,893 名（1 か月平均）、入院患者　158 名（1 か月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、循環器・救急領域において集中的に経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、循環器・救急領域において集中的に経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	法人として回復期病棟や地域包括ケア病棟をもつ、西宮渡辺病院、西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院や特別養護老人ホーム、訪問看護ステーションとの連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	補助人工心臓治療関連学会協議会　インペラ協会 循環器専門医研修関連施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本成人心臓血管外科手術データベース施設認定 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 ステントグラフト実施施設（胸部）

	ステントグラフト実施施設（腹部） 一次脳卒中センター 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 2017 年度循環器疾患診療実態調査参加施設

医療生活わたり病院

1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 ・パワーハラスメント・セクシャルハラスメントの委員会があり相談窓口が法人本部に整備されています。(臨床心理士によるカウンセリング有り)
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が　1　名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンス（2023年度予定）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、の分野については、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	渡部朋幸 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は福島県県北の医療圏で、一般の急性期医療から回復期、慢性期、緩和ケア、在宅医療を担っています。県庁所在地でありながら山間部も多く、患者層は多種多様です。 内科病棟は臓器別ではなく、また外来も紹介状なしで利用でき、まさにプライマリ･ケアを学ぶに最適な環境です。総合診療を志す医師・専攻医が多く在籍していますので、そのような環境で研修することができるのが特徴です。
指導医など（常勤医） （2025年4月現在）	日本内科学会　指導医　　１名 日本内科学会　総合内科専門医　３名
外来･入院患者数（年間） （2024年度実績）	年間新外来患者　787　名 １日平均外来患者数　153.3　名 年間入院患者実数　2,293　名
経験できる疾患群	入院患者および外来患者を合わせた診療において、主に研修手帳（疾患群項目表）にある、総合内科、消化器、循環器、代謝、神経の５領域、２４疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術･技能	実際の症例に基づきながら、特に、高齢の患者の診療・治療に必要な技術技能を経験することができます。
経験できる地域医療･診療連携	紹介状なしでかかれる外来、また回復期・緩和ケア科・在宅医療を展開しており、地域の医療機関や介護福祉施設との連携を日常的に経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育関連施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 日本老年医学会研修施設 日本リハビリテーション医学会研修施設

宇治徳洲会病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ 医員室（院内 LAN 環境完備）・仮眠室有. ・専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が１０名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC（2024 年度９回開催)、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します．そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会を含め 2024 年度は計７題の学会発表をしています.
指導責任者	舛田　一哲
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医１４、日本消化器病学会消化器専門医１１名、日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡専門医７名、日本循環器学会循環器専門医１３名、不整脈専門医１名、日本呼吸器学会呼吸器専門医３名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医１２名
外来・入院患者数 （年間）	外来患者３２１，７３０名　入院患者１６，707 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	新専門医制度専門研修プログラム（内科領域）基幹施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本心血管インターベーション治療学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡関連認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設 日本不整脈心電図学会不整脈専門医研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設

	経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 左心耳閉鎖システム実施施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 など

済生会中津病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度研修指定病院(基幹型・協力型)です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・済生会中津病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医 25 名、総合内科専門医 23 名 ・内科専門研修プログラム管理委員会:統括責任者(委員長)、臨床教育部部長、各内科系診療科部長などで構成され、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・内科専門研修委員会を設置し、臨床教育部と協働して基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理し、プログラムに沿った研修ができるよう調整します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・各診療科が参加している地域参加型のカンファレンスに専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育部が対応します。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 56 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2019 年度 14 体、2020 年度 4 体、2020 年度 9 体、2021 年度 8 体、2022 年度 4 体、2023 年度 6 体、2024 年度 4 体、2025 年度 1 体)を行っています。
4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。IBM 統計ソフトが利用できます。 ・倫理委員会を設置し、必要時に開催しています。 ・治験審査委員会と臨床研究倫理審査委員会を設置し、各々審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	新谷 光世 (内科専門研修プログラム統括責任者) 【内科専攻医へのメッセージ】大阪府済生会中津病院は、2023 年 1 月から急性期充実加算を取得し、急性期病院としてさらなる充実と発展を遂げるべく努力をしています。2023 年 4 月からは、隣接した大淀地区に大阪北リハビリテーション病院が新たに開院し、従来からの訪問看護ステーション、特別養護老人ホームと合わせ、福祉医療センターとして、入院から退院、療養までの切れ目ない医療福祉サービスを地域に提供していく体制をとっています。専攻医は、主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療、退院指導、退院支援を行い、診療行為を通して、全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します。
指導医など (常勤医) (2023 年 4 月現在)	日本内科学会指導医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、 日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医 3 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医(内科)1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来延患者:11,657 名(1 ヶ月平均)・新入院患者: 1,163 名(1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度内科専門医教育病院 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 など

湘南鎌倉総合病院

1）専攻医の環境	・669 床の初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。・「JCI」（米国の国際医療機能評価機関）認定病院、「JMIP」（外国人患者受入れに関する認定制度）認証病院である。・研修に必要な図書室とインターネット・Wi-Fi 環境がある。・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課、臨床心理室）がある。・ハラスメント委員会が院内に整備され、月一回開催されている。・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備され、HOSPIRATE 認証病院となっている。・敷地内に院内保育所（24 時間・365 日運営）があり、利用可能である。
2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 45 名在籍。・内科専門研修プログラム管理委員会；専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター／内科専門研修センターを設置する。・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医には受講を原則的に義務付け、そのための時間的余裕を与える。・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催実績1回、受講者 10 名）を義務付けそのための時間的余裕を与える。・日本専門医機構による施設実施調査に臨床研修センターが対応する。・英国人医師による問診聴取や身体所見の取り方を研修するとともに、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。・特別連携施設の専門研修では、電話やインターネットを通じて月 1 回の湘南鎌倉総合病院での面談・カンファレンスにより、指導医がその施設での研修指導を行う。
3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できる。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 15 体）を行っている。
4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備している。UpToDate、今日の臨床サポートの医療検索ツールも充実しており、Mobile を用いた検索も全内科医師が可能な環境である。・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績 47 回 内訳；徳洲会全体 24 回、院内 23 回）している。・治験管理室を設置し、定期的に治験審査会を開催（2023 年度実績 12 回）している。再生医療のための特定認定再生医療等審査委員会も設置され CPC （cell processing center）が用意され今後の展開が可能。・臨床研究センターが設置されており、症例報告のみならず臨床研究への積極的な参画を推進する。・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表（2023 年度実績 3 演題）をしている。
指導責任者	守矢 英和 【内科専攻医へのメッセージ】 湘南鎌倉総合病院は、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院であり、神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

指導医など（常勤医）2024 年 4 月	日本内科学会指導医 45 名、日本内科学会総合内科専門医 29 名、日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 22 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 8 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本血液学会血液専門医名 4 名、日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名、日本感染症学会専門医数 1 名
患者数	外来患者 545,885 名 新入院患者 23,901 名（2023 年度実績）
疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本病態栄養学会認定施設、日本急性血液浄化学会認定施設、日本アフェレシス学会認定施設、日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院、日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本認知症学会教育施設認定、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会認定指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設

筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・総合病院水戸協同病院

1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターを設置し，民間病院の中に国立大学の教育システム を導入して，筑波大学の教員である医師が共同で診療・教育を行っています. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. 筑波大学附属図書館と直結したインター ネット回線があり，筑波大学で契約している電子ジャーナルを共有しています. ・病院職員（常勤）として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署があります（茨城県厚生連内） ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備 されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
2）専門研修プログ ラムの環境	・ 指導医は 14 名在籍しています. ・ 総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理委員長にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修管理委員会を設置します. ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度 3 回、2022 年度 3 回）し，専攻医に 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2023 年度 2 回，2022 年度 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ CPC（2023 年度 4 回），マクロ CPC（2023 年度 4 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催実績 2 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応します.
3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2023 年度 7 体）を行っていま す.
4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し，不定期に開催しています. ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. 筑波大学の教員が訪問して臨床研究相談会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会で積極的に学会発表をしています.

指導責任者	小林 裕幸　　【内科専攻医へのメッセージ】 水戸協同病院は筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターを設置し、大学病院でも一般病院でも実現困難な、全く新しい診療と臨床研修体制を実現しました他に例を見ないこの体制は誰もが描く診療と研修の理想像に近く、あのTierney先生の一番弟子であるUCSFのDhaliwal先生をして「嫉妬を感じる」と言わしめた体制です。その体制の中核は、病院全体が水戸協同病院でありかつ教育センターであること、内科、救急、集中治療の間に垣根がない総合診療体制で、他のすべての科を含んだ病院全体が一体化していること、毎朝、毎週、全内科はもちろん病理学部門を含む主要科がそろって症例検討すること、教授から研修医までみんなの目線が等しくいつでもどこでも、普通に気軽に相談、討論できること、そして、「すべては研修医のために」を方針として常に体制を見直していることです。さあ、皆さん、一緒に学び、そして地域医療に貢献しようではありませんか。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名, 日本内科学会総合内科専門医 13 名,日本消化器病学会消化器専門医 1 名, 日本循環器学会循環器専門医 2 名, 日本糖尿病学会専門医 3 名, 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名, 日本神経学会神経内科専門医 1 名, ほか
外来・入院患者数	外来患者 616 名(1 日平均)　入院患者 258 名(1 日 平均)2022.4～2023.3
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて｢研修手帳(疾患群項目表)｣にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	「技術・技能評価手帳」にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設　日本病院総合診療医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設　日本循環器学会循環器研修施設　日本消化器病学会認定施設 日本血液学会認定研修施設　日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設　日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会(NST 稼動施設認定)　日本頭痛学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院　日本人間ドック学会会員施設 日本緩和医療学会認定研修施設　日本緩和医療学会緩和ケアチーム登録施設 救急科専門医指定施設、DMAT 指定病院 茨城県広域スポーツセンタースポーツ医科学推進事業協力医療機関認施設　など

千鳥橋病院

1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 常勤医師として労務環境が保障されている。 メンタルストレスに適切に対処する部署があり、「こころの相談室」および臨床心理士設置している。 ハラスメント委員会が整備されている。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 病院敷地内院内保育所があり、利用可能である。
2)専門研修プログラムの環境	指導医は 8 名在籍している。 千鳥橋病院内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者、内科研修委員長、ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている内科研修委員会との連携を図る。 専攻医の日常的な状況把握とプログラム運営に関わる内科研修委員会(事務局的役割)を設置する。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。 CPC を定期的に開催(内科系 2024 度実績 10 回、2025 度実績 7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。 地域参加型カンファレンス、在宅カンファレンス、臨床倫理 4 分割法カンファなどを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。 日本専門医機構による施設実地調査に千鳥橋病院内科専門研修プログラム管理委員会が対応する。 特別連携施設(大楠診療所、たたらリハビリテーション病院、上戸町病院、みさき病院)の専門研修では、テレビ会議システムなども利用した千鳥橋病院でのカンファレンス・面談などにより、指導医がその施設での研修指導を行う。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できる。 専門研修に必要な剖検(内科系 2024 年度 8 体、2024 年度 8 体)を行っている。
4)学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室を整備している。　倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 千鳥橋病院学術支援センターによる臨床研究に関する学習会を開催している。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2025 年実績 7 演題、他の内科系学会発表 4 演題)をしている。

指導責任者	山本 一視 【内科専攻医へのメッセージ】 当院内科専門研修プログラムは、地域の総合病院を主たる研修の場としています。内科系各領域の専門医にも共通に必要とされる総合性、地域のニーズに寄り添い努力する姿勢を身に着けることを重視して、多職種専門職、各領域の専門医の積極的な参加を得て標準的で安全な診療を実践する内科医を養成します。WHO のネットワークである HPH(健康増進活動拠点病院)の日本における最初の認定病院として、国際社会で通用する豊かな人権意識と社会性を有しつつ、健康の社会的決定要因に目を向けて地域社会・住民と患者と医療従事者に対するヘルスプロモーションを実践する内科医を養成します。専門領域へ進む前にまずは「The 総合内科医」としての力と構えを身につけたい人、地域住民の一番近くで活躍する内科医を将来像に描く人を募集します。
指導医など 2024 年 4 月現在	指導医 8 名　日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本神経学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	総入院患者(実数) 4,961 名(年間) 総外来患者(実数) 2,894 名(年間) (2025 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な福岡市の急性期・亜急性期医療を担い、急性期病棟、地域包括ケア病棟・回復期リハビリ病棟を有する病院であり、地域の医療・介護・福祉連携の中核的な病院である。超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験、高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携を経験できる。
学会認定施設 (内科系)	内科専門研修プログラム基幹施設 総合診療専門研修プログラム基幹施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本呼吸器学会認定特別連携施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本透析医学会専門医制度認定関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本病理学会認定研修施設B 日本感染症学会認定研修施設 など

船橋二和病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	・研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されています。 病院内で UpToDate、医中誌などの医療情報サービスを閲覧できます。
	・船橋二和病院の常勤医師として労務環境が保障されています。
	・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会・担当保健師）があります。
	・ハラスメント委員会が整備されています。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、専用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
	・敷地内に院内保育所があり、病児保育も行っています。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 5 名在籍しています。
	・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と後期研修委員会を設置します。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	・地域参加型カンファレンス(船橋市 CKD 連携の会、CT 健診読影会、腎臓病カンファレンス等)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・本プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・日本専門医機構による施設実地調査に後期研修委員会と船橋二和病院内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
	・特別連携施設（千葉健生病院・船橋二和病院附属ふたわ診療所・城南病院）の専門研修では、随時の電話相談や週 1 回の船橋二和病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 3 体）を行っています。
4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な設備として、院内に図書室があり、UpToDate、医中誌などの医療情報サービス、文献取り寄せシステムなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題以上の学会発表(2024 年度 2 回　2025 年度 2 回)をしています。 ・臨床研究センターを設置し、学会・論文発表の推進、生涯研修の充実をはかります。 ・大学の研究に参加しています。

淀川キリスト病院

1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. 貸与されたタブレット端末を用いて電子ジャーナル検索がいつでもできます. ・淀川キリスト教病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(メンタルヘルス推進課)があります. ・ハラスメント相談窓口およびハラスメント防止・対応マニュアルが淀川キリスト教病院グループ内に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり,利用可能です. また院内で病児保育の利用も可能です.
2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 29 名在籍しています(下記). ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者:総合内科専門医かつ指導医)にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績 5 回)し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催(2025 年度実績 7 回)し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス(2025 年度実績 12 回)を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・プログラム所属の全専攻医に JMECC 受講(2025 年度開催実績 1 回:受講者 9 名)を義務付けそのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.

3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 5 体）を行っています.
4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室, 資料作成室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し, 定期的に開催（2025 年度実績 11 回）しています. ・治験審査委員会を設置し, 定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 14 演題）をしています.
指導責任者	紙森 隆雄 【内科専攻医へのメッセージ】 内科専門医を目指す方々は専門研修にどのようなイメージを持っておられるでしょうか. 内科の基礎をしっかり学びたい方もいれば, 早く subspecialty 領域の力をつけて行きたい方もいるでしょう. 将来どの分野に進むにせよこの 3 年間は内科医の土台となる最も大事な時期です. 淀川キリスト教病院内科プログラムでは, 一人一人の希望も汲みつつ内科医としての実力を養うための専攻スケジュールを提供します. 当院は, 全人医療を理念とし, 幅広い診療科と高度な医療機器を備え, 大阪市北部・北摂地域の医療の中心的役割を担っている 581 床の急性期総合病院です. 年間 7000 件前後の救急搬送実績があります. 11 科からなる内科には, 将来希望する subspecialty に充実した指導医やスタッフが在籍しています. これらの総合力を活かした幅広く質の高い研修ができること, さらにそれぞれの内科で subspecialty との並行研修ができ, 切れ目なく希望する専門内科に進めるというのが当プログラムの特長です. また, 地域医療から高度先進医療まで様々なニーズに応えられる多くの病院と連携しています. プログラムでは, 内科医に不可欠な知識や技能, 態度, 問題解決方法に加え, 将来の目標に合わせた研修を自ら選択できるよう様々な配慮をしています. 質の高い内科専門医を目指す研修医の皆様の参加をぜひお待ちしています.
指導医など 2023 年 4 月現在	日本内科学会指導医 29 名, 日本内科学会総合内科専門医 35 名, 日本消化器病学会消化器専門医 11 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名, 日本循環器学会循環器専門医 7 名, 日本内分泌学会専門医 4 名, 日本糖尿病学会専門医 4 名, 日本腎臓病学会専門医 3 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名, 日本血液学会認定血液専門医 3 名, 日本神経学会神経内科専門医 5 名, 日本アレルギー学会専門医 6 名, 日本リウマチ学会専門医 2 名, がん薬物療法専門医 2 名, 日本感染症学会 1 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 12 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 10271 名（2025 年度平均延数／月） 新入院患者 512 名（2025 年度平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて. 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域. 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます. 急性期医療では集中治療室での超重症例の診療も可能です.
学会認定施設 （内科系）	内科専門研修プログラム基幹施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会専門医研修教育施設 日本リウマチ学会教育施設

	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定教育施設 など

兵庫医科大学病院

1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。 ・ 専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。 ・ 心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理し、特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・ 女性専攻医も安心して勤務できるように環境が整備されています。 ・ 隣接地の保育園に当院専用枠が 50 名分あり、事前手続きにより利用可能です。また、院内に病児保育室も整備されています。
2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 44 名在籍しています。 ・ 本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を兵庫医科大学病院に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催しています。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に、卒後臨床研修センターとプログラム管理委員会とで対応します。
3)診療経験の環境	・ 兵庫医科大学病院には 10 の内科系診療科があり、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて経験すべき全 70 疾患群を全て充足可能です。 ・ 専門研修に必要な剖検数を行っています。
4)学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会および治験管理委員会を開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年学会発表をしています。
指導責任者	木島　貴志 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫医科大学病院は、阪神地区における基幹病院であり、急性期疾患から起床疾患まで多岐にわたる疾患群の研修が可能です。大学病院という特性から、先進的医療が充実していますが、一方、地域医療の実践も重視しており、バランスの取れた内科研修を行うことが出来ます。また教育スタッフも豊富で、臨床のみならず、臨床研究も行っており、各位の希望に沿った研修が期待できます。

指導医など （常勤医） （2023 年 4 月現在）	日本内科学会指導医 58 名、日本内科学会総合内科専門医 59 名、血液専門医 8 名、日本リウマチ学会専門医 9 名、日本糖尿病学会認定専門医 11 名、日本内分泌学会専門医 9 名、日本消化器病学会消化器専門医 24 名、日本消化器内視鏡学会専門医 29 名、日本呼吸器学会専門医 9 名、日本神経学会専門医 4 名、日本腎臓学会認定専門医 9 名、日本透析医学会認定専門医 11 名、日本循環器学会専門医 18 名
外来・入院患者数 （2023 年度実績）	外来患者数:213,815(延人数)・入院患者数:104,879(延人数)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の全てを経験することが出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院は急性期病院であり、回復期病棟や地域包括ケア病棟、あるいは緩和ケア病棟を持つ連携病院と一体となって、退院後も継続して患者を経過観察できる体制となっています。
学会認定施設 （内科系）	日日本アレルギー学会、日本がん治療認定医機構、日本リウマチ学会、日本肝臓学会 日本血液学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本循環器学会 日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本心血管インターベンション学会、 日本緩和医療学会、日本静脈経腸栄養学会 、日本動脈硬化学会 、日本不整脈学会 日本神経学会、日本大腸肛門病学会、日本超音波医学会、日本糖尿病学会 日本透析医学会、日本頭痛学会、日本内科学会、日本内分泌学会 日本脳卒中学会、日本輸血・細胞治療学会、日本臨床細胞学会、日本臨床腫瘍学会 日本臨床神経生理学会、日本老年医学会、日本 IVR 学会、日本カプセル内視鏡学会 日本高血圧学会、日本消化管学会 、日本胆道学会

松本協立病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネットの環境があります。 ・松本協立病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室、更衣室、仮眠室、当直室等が整備されています。 ・病院近傍に病児保育施設があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 5 名在籍しています。(下記) ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績 医療安全 24 回、医療倫理 1 回、感染対策 4 回)。し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催(2024 年度実績 1 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス(2024 年度実績 5 病院連携カンファレンス 2 回、病診連携カンファレンス 2 回)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2024 年度 2 演題)をしています。

指導責任者	上島　邦彦(総合診療科部長) 【内科専攻医へのメッセージ】 松本協立病院は松本駅アルプス口に隣接する 199 床の急性期病院です。現在は松本市近郊の一次・二次医療から三次医療の一部を担っています。地域に根差し、地域に支えられ、地域に開かれた病院として、安心感・満足度の高い急性期医療を提供し続け、地域のニーズに応えられる内科専門医の育成を目指しています。
指導医など（常勤医） (2024 年 4 月現在)	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器病専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 1 名
外来・入院患者数(年間) (2024 年度実績)	外来患者 13,227 名(1 ヶ月平均)　入院患者 374 名(1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本不整脈心電学会・不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本アレルギー学会教育施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設

仙台厚生病院

認定基準 1)専攻医の環境	臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署（総務部）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所および病児・病後児保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 21 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置、既存の医学教育支援室と連携し活動します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 43 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年 1 回開催、インストラクター2 名在籍、院内開催実績 9 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医学教育支援室が対応します。 ・特別連携施設（永仁会病院、古川星陵病院、仙石病院、広南病院）の専門研修では、電話や週 1 回の仙台厚生病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、読影室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2024 年度実績 10 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	堀江　和紀 【内科専攻医へのメッセージ】 仙台厚生病院は宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であり、仙台医療圏および大崎・栗原医療圏、東京都区西部および区西北部保健医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 なお特記すべき内容として、三陸沿岸からの移住者が震災後に非常に増加している大崎・栗原医療圏の地域密着型病院での研修を必須としています。これらの施設では訪問診療を含めた地域医療、高齢者医療の経験を十分に積むことを目標とします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 21 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名、日本内科学会認定内科医 30 名、内科専門医 16 名、日本循環器学会循環器専門医 19 名、日本消化器病学会消化器病専門医 15 名、日本肝臓内科肝臓専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数 （2025 年度実績）	年間入院患者数（延べ）141,502 名、年間外来患者数（延べ）137,511 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例 に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本循環器学会 循環器専門医研修施設 日本消化器がん検診学会 認定指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 専門医制度認定施設 日本感染症学会 研修施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設（連携施設） 日本消化器病学会 専門医制度認定施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本超音波医学会 認定超音波専門医制度研修施設 日本不整脈心電学会 認定不整脈専門医研修施設 日本カプセル内視鏡学会 指導施設 日本肝臓学会 認定施設 日本循環器学会 経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設

	日本内科学会・日本専門医機構 専門研修プログラム認定 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 経カテーテル的大動脈弁置換術指導施設 日本成人先天性心疾患学会 成人先天性心疾患専門医連携修練施設 日本心血管インターベンション治療学会 経皮的動脈管開存閉鎖術実施施設 日本循環器学会 左心耳閉鎖システム実施施設 補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本心血管インターベンション治療学会 卵円孔開存閉鎖術実施施設 日本心エコー図学会 認定心エコー図専門医制度研修施設 日本アレルギー学会 アレルギー専門医準教育研修認定施設 日本脈管学会 研修指定施設 日本循環器学会 経皮的三尖弁接合不全修復システム実施施設 特定非営利活動法人日本肺癌学会　教育認定施設　　など

浦添総合病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネットの環境があります. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(職員サポートセンター)があります. ・ハラスメントに関する委員会については, 人事審査委員会が整備されています。 ・事業所内保育所があり, 利用可能です. (浦添総合病院より徒歩5分) ・女性医師が安心して勤務できるように, 女性更衣室, 女性専用シャワー室, 当直室, を設置しています.
2)専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は 15 名在籍しています(下記指導医数参照). ・内科専門研修プログラム管理委員会にて, 基幹施設, 連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会と教育研究室を設置しています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催(2025 年度実績 3 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス[救急症例検討会(隔月), 地域医療連携講演会(不定期), 他]を開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研究室が対応します. ・特別連携施設の専門研修では, 電話やインターネットを使用して指導医がその施設での研修指導を行います.
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 10 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます. ・専門研修に必要な剖検(2024 年度 6 体)を行っています.
4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・臨床倫理委員会を設置し, 開催しています. ・臨床研究支援センターを設置し, 定期的に治験審査委員会(月1回)を開催 しています.

	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	仲吉 朝邦 【内科専攻医へのメッセージ】 浦添総合病院のある浦添市は, “沖縄の空の玄関口”那覇空港から北へ約 25 分に位置しており, 研修生活に最適な環境(住宅・交通の便)が整っております. 近隣に立地する群星(むりぶし)沖縄臨床研修センター主催の講演会(定期的に国内外の有名講師を招聘)や近隣ホテルで開催される講演会への参加など, 良い研修に必要不可欠な情報へのアクセスも抜群です. もちろん, 院内での研修内容も充実しております. 当院は浦添市・那覇市・宜野湾市を中心に地域の中核病院としての役割を担っているため, 多くの症例を経験でき, 初期研修で学んだ内科専門知識を深めることはもとより, 内科専攻医に必要な 13 領域 70 疾患群の症例を十分に経験できるものとなっております. また, 当プログラムの大きな特長は豊富な急性期疾患を経験できるということです. 沖縄県内3つの救命救急センターのうちの1つを有し, トップクラスの救急車搬送患者数を誇ります. 病院前診療にも力を入れており, 沖縄県の補助事業であるドクターヘリや消防本部からの要請で現場へ駆けつけるドクターカー研修も可能です. 一方, 連携施設では, 離島研修や高齢者医療, 在宅医療を経験できる体制を整えております. これらをバランス良く経験することで, 今後の内科医としての礎を築くことにつながるでしょう. 専攻医の皆さんが“主役”です. “主役”にとって良い研修が何なのかを常に考え, 実践することを私たちはお約束します.
指導医など （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名, 日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会指導医 2 名, 専門医 6 名 日本肝臓学会指導医 1 名, 専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会指導医 3 名, 専門医 6 名 日本循環器学会専門医 6 名, 日本糖尿病学会指導医 2 名, 専門医 2 名 日本腎臓病学会指導医 1 名, 専門医 2 名 日本呼吸器学会指導医 1 名, 専門医 1 名 日本感染症学会専門医 2 名, 日本透析医学会指導医 2 名, 専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 14 名, ほか
外来・入院患者数	総外来患者数(実数):89,039 名 総入院患者数(実数):13,601 名
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます. 一部の領域(血液, 膠原病分野)は連携病院での研修で十分履修可能です.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本病院総合診療医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管鏡専門医制度関連施設 日本禁煙学会教育認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器病学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会認定指導施設

	日本大腸肛門病学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設

立川相互病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。フリーダイヤルによる外部専門カウンセラーによる相談と，24 時間 365 日のメール対応，臨床心理士などとの面談も可能です。 ・ハラスメントに適切に対処する部署があります。相談窓口を常設し臨床心理士、産業カウンセラー等有資格者による専任カウンセラーとの面談も可能です。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・病院と隣接した場所に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 18 名在籍しています。 ・立川相互病院内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：副院長，プログラム管理者：副院長，ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている内科研修委員会との連携を図ります。 ・専攻医の日常的な状況把握とプログラム運営に関わる内科専門研修委員会，他科領域も含めた複数領域をトータルに管理する臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的保障を行います。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的保障を行います。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的保障を行います。 ・地域参加型カンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的保障を行います。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的保障を行います。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設（王子生協病院，小豆沢病院，立川相互ふれあいクリニック，錦町クリニック，国分寺ひかり診療所，大南ファミリークリニック，あきしま相互病院，すながわ相互診療所，羽村相互診療所，日野台診療所，谷保駅前相互診療所，府中診療所，ながふさ共立診療所，多摩みなみクリニック，八王子共立診療所）の専門研修では，月 1 回以上の定期的な立川相互病院での面談とカンファレンスやＴＶ会議システムや電話の活用などにより，指導医がその施設での研修指導を行います．
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 17 体、2024 年度実績 23 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（毎月定例開催）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を行います。 （2024 年度：内科学会地方会発表 7 件） ・地域臨床研究センターがあり、専攻医の臨床研究の援助を行います

指導責任者	大塚 信一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 立川相互病院は、東京の多摩地域の中心的な急性期病院であり、断らない医療で地域の期待にこたえ、連携機関との関係を日常的に強めています。 専門診療科病棟とは別に、総合診療科病棟、365 日 24 時間対応の救急病棟 ER などを要し、職員の研修教育や様々な職種とのチーム医療を重視しています。 安心して専門医療を受けられ、かつ差額ベッド料のない急性期総合病院である本院を中心に、療養型病院、回復期リハビリ・地域包括ケア病院、一般診療所、訪問看護・ヘルパーステーションなど、多摩地域で広範な医療を展開し、また地域の医療機関や大学病院との連携を通じ、最新医療技術の導入や地域医療の発展に努めています。病気だけではなく、患者様の社会的背景も包括する全人的医療を実践し、主治医能力を磨き、地域医療に貢献できる内科専門医を目指しましょう。
指導医数、 専門医数（内科系）	日本内科学会指導医：18 名日本内科学会総合内科専門医：14 名、日本消化器病学会消化器専門医 ： 4 名　日本循環器学会循環器専門医 ：2 名日本リウマチ学会専門医 ：1 名日本腎臓学会専門医 ：4 名　日本透析医学会専門医：4 名日本糖尿病学会専門医 ： 5 名　日本呼吸器学会呼吸器専門医 ： 2 名日本神経学会専門医 ： 1 名
外来・入院患者数	外来患者 3239 名・うち内科 153 名（1 ヶ月平均） 入院患者 641 名・うち内科 355 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例 を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例にもとづきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院／日本プライマリ・ケア学会認定研修施設／日本神経学会専門医制度教育施設／日本循環器学会認定循環器 専門医研修病院／日本呼吸器学会認定施設／日本呼吸器内視鏡学会認定施設／日本消化器病学会専門医制度認定施設／日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設／日本腎臓学 会研修施設／日本透析医学会認定医制度認定施設／家庭医療学会後期研修プログラム認定 施設／日本がん治療認定研修施設／日本リウマチ学会教育施設／日本糖尿病学会認定教育 施設／日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設

新潟大学医歯学総合病院

1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です． ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります． ･新潟大学医歯学総合病院常勤医師として労務環境が保障されています． ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります． ･ハラスメント委員会が整備されています． ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています． ･敷地内に保育所があり，利用可能です．
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 86 名在籍しています． ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります． ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度　医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます． ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち腎臓，膠原病，アレルギー、感染症、救急および総合内科の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています．必要な場合は当該科と協議の上，研修期間を定めて研修を行うことができます．

4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています（2024 年度実績 28 演題）．内科系学会での発表数（2024 年度実績 318 演題）
指導責任者	井口　清太郎 【内科専攻医へのメッセージ】 新潟大学医歯学総合病院ではほぼ全ての内科領域を研修できるようになっています．また，サブスペシャリティ領域の研修も見据えた研修を行うことができ，内科専門医取得後のサブスペシャリティ専門医の取得にも有利となります． それぞれの専攻医がスムーズに専門医を取得できるよう環境を整備するために，内科に関連する 10 の科が定期的に会合を持ち（内科系協議会），必要な事項を協議しています．また JMECC も開催しており，専攻医が受講しやすい環境も整備しています．
指導医など （常勤医） （2024 年 4 月現在）	日本内科学会指導医 86 名，日本内科学会総合内科専門医 83 名，日本内科学会内科専門医 27 名，日本内科学会認定内科医 32 名，日本消化器病学会消化器専門医 19 名，日本循環器学会循環器専門医 18，日本内分泌学会内分泌専門医 8 名，日本腎臓学会専門医 13 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 16 名，日本血液学会血液専門医 7 名，日本神経学会神経内科専門医 27 名，日本アレルギー学会アレルギー専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 6 名，日本感染症学会感染症専門医 8 名，日本糖尿病学会専門医 15 名，日本老年医学会老年病専門医 2 名，日本肝臓学会専門医 18 名，日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 17 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名ほか
外来・入院患者数（年間） （2024 年度実績）	外来：　375,058 名　（2024 年延べ数） 入院：　11,189 名　（2024 年実数）
経験できる疾患群	主に腎、膠原病の症例を経験できます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応して地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会，日本消化器病学会消，日本循環器学会，日本内分泌学会，日本腎臓学会，日本呼吸器学会，日本血液学会，日本神経学会名，日本アレルギー学会，日本リウマチ学会，日本感染症学会，日本糖尿病学会，日本老年医学会，日本肝臓学会，日本消化器内視鏡学会，他

姫路医療センター

1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･姫路医療センター期間職員として待遇され賞与、超過勤務手当、当直手当の支給あり、労務環境が保障されています。 ･専攻医用宿舎があります。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります。 ･ハラスメントに関して安全衛生委員会が担当しています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 14 名在籍しています（2024 年 4 月現在）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：河村哲治）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・指導医も専攻医も研修状態を電子カルテ端末上でリアルタイムに管理できるよう IT 技術を駆使した本院独自の研修支援システムを構築します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（月曜会、姫路 GI 研究会、若手医師のための呼吸器勉強会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（姫路市内の病院で共同開催の予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会と事務部が対応します。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野において全疾患群について定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。3 分野（内分泌、腎臓、神経）については一部の疾患群で症例数が不足していますが連携施設での研修で十分な研修が可能です。 ・専門研修に必要な剖検（年間平約 5 体）を行っています。
4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催（毎月 1 回開催）しています。 ・臨床研究推進室（治験管理、自主研究管理）を設置し、受託研究審査会も毎月 1 回開催しています。
指導責任者	河村哲治 【内科専攻医へのメッセージ】 ・姫路医療センターには、ややもするとありがちな出身大学間や人間関係の軋轢がなく、アットホームな雰囲気で研修に集中でき、従来の後期研修医からも人気を集めており、後期研修終了後は常勤医師に昇進する例が大多数を占めています。 ・本院独自に開発している研修支援システムは、細かな規則も含めたカリキュラム規定をすべて盛り込んで全専攻医が能率的に確実にカリキュラムを消化できるようにテクニカルな側面から強力に支援を行うものであり、リアルタイムに研修進行過程を視覚的に確認することが可能であり、安心して研修に集中することを支援します。 ・研修支援システムの補助により、内科全科同時研修進行を可能としており、希少症例もタイムリーに経験することを可能とし、無理のない学会報告をも可能としています。 ・サブスペシャルティの並行研修を行うことを強く意識していますが、それを希望する場合は研修支援システムの補助のもと研修進行状況を厳重に管理し実現に向けて最大限の支援を行います。 ・とくに呼吸器、消化器については先進的なサブスペシャルティ研修が可能です。
指導医など （常勤医） （2024 年 4 月現在）	日本内科学会指導医 14 名 日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本消化器内視鏡学会専門医 12 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名

	日本糖尿病学会指導医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 15 名 日本呼吸器学会呼吸器指導医 8 名 日本呼吸器内視鏡学会専門医 9 名 日本呼吸器内視鏡学会指導医 5 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本リウマチ学会専門医 5 名 日本リウマチ学会指導医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本感染症学会指導医 1 名　　ほか
外来・入院患者数（年間） （202３年度実績）	内科系の外来患者 5,120 名（1 ヶ月平均） 内科系の入院患者 5,897 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例について、腎疾患、神経疾患については一部の疾患群で症例数が不足しているが、その他は幅広く経験することができます。不足領域は連携病院での研修で十分研修できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

３）　専門研修特別連携施設

東大阪生協病院

1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･期間に応じて常勤医師または非常勤医師として適切な労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署及び産業カウンセリングがあります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 1 名在籍しています（下記）。 ･医師研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　医療倫理 3 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、「神経」領域の研修を当施設では担当し、入院、外来、訪問診療を通して症例を経験します。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています。

	・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	三橋（橘田）亜由美 【内科専攻医へのメッセージ】地域医療を担う病院の神経内科として、脳血管障害と変性疾患の中でも common な疾患である、パーキンソン病、その関連疾患、多系統萎縮、脊髄小脳変性症、ALS、認知症疾患等を入院、外来、訪問診療の全てを通して豊富に経験して頂けます。神経難病や脳血管障害の後遺症とともに生きる患者を地域と生活の場に根ざした神経内科としてコーディネートや支援を行う経験は、診断、治療に偏りがちな内科診療において、患者の生活や QOL を高めるという視点での研修として重要だと考えています。又、症候としては、頭痛、めまい、しびれ、物忘れなど、内科医として非常に多く対応する事になる主訴に対しての正確な診断、鑑別、治療を学んで頂けます。 又、当院に特徴的な事として、水俣病や労災職業病としての振動病など、社会医学と関連した神経内科疾患の経験や、水俣病健診などを経験して頂けます。 神経内科の疾患は治療法がない、治らない、後遺症が残るなど、医師としてのやりがいがないと思われている専攻医もいらっしゃるでしょうが、患者によりそい、できうる限りの医療、支援を行う事の重要性とやりがいを実感して頂ければと思います。
指導医など	日本神経学会専門医　1 名
外来・入院患者数	外来患者　3800　名（1 ヶ月平均）　入院患者　100 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1）研修手帳（疾患群項目表）にある「神経」領域の９疾患群の全てを経験する事が可能。
経験できる技術・技能	1）神経内科研修として最も重視しているのが、「神経症候学」です。研修期間中、精度の高い神経診察の手技、及びその症候学を徹底して身につけて頂けます。 2）技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な専門的検査における頭・脊椎 CT、MRI 画像読影、脳脊髄液検査を始め、神経伝導速度、筋電図、脳波などの電気生理検査、高次機能検査、認知機能検査（ADASCOG 等）を経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	そもそもが地域医療を担っている病院であり、全ての医療実践が地域医療に裏打ちされた実践となっています。急性期病棟での入院医療、外来診療、強化型在宅療養支援病院としての 365 日 24 時間体制の訪問診療を主治医として経験できます。また、希望があれば同法人内の診療所からの神経内科訪問診療などにも出向して頂けます。
学会認定施設（内科系）	・日本リハビリテーション医学会認定専門医研修施設　・大阪府肝炎専門医療機関 ・社団法人日本リハビリテーション医学会認定専門医研修施設　・日本神経学会専門医制度教育関連施設 ・日本家庭医療学会認定後期研修施設　・日本静脈経腸栄養学会認定　ＮＳＴ稼動施設 ・マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定　マンモグラフィ検診施設

耳原総合病院　内科専門研修

プログラム管理委員会

耳原総合病院

川口　真弓　（プログラム統括責任者、委員長、内分泌代謝膠原病分野責任者）
大矢　亮　（プログラム実務責任者、総合内科分野責任者）
岩谷　太平　（消化器内科分野責任者）
石原　昭三　（循環器内科分野責任者）
大矢　麻耶　（腎臓分野責任者）
浜矢　早苗　（看護部代表、循環器センター　副センター長）
西川　暉己　（事務局代表、臨床研修センター事務担当）

連携施設担当委員

西淀病院	福島　啓
コープおおさか病院	長　哲太郎
東大阪生協病院	三橋　亜由美
土庫病院	洲脇　直己
尼崎医療生協病院	中田　均
和歌山生協病院	畑　伸弘
健生病院	竹内　一仁
あおもり協立病院	内藤　貴之
利根中央病院	吉見　誠至
長野中央病院	河野　恆輔
大阪公立大学附属病院	伊東　朝広
近畿中央呼吸器センター	蓑毛　祥次郎
愛媛大学医学部附属病院	高田　康徳
近畿大学病院	馬場谷　成
大阪労災病院	山内　淳
京都民医連中央病院	田中　憲明
勤医協中央病院	湯野　暁子
坂総合病院	渡部　潔
ツカザキ病院	飯田　英隆
みどり病院	足立　和正
下越病院	末武　修史
香芝生喜病院	笠行　典章
埼玉協同病院	忍　哲也
神戸市立医療センター中央病院	古川　裕
西宮渡部心臓脳血管センター	合田　亜希子
宇治徳洲会病院	舛田　一哲
済生会中津病院	嶋津　啓二
鳥取生協病院	宮崎　慎一
滋賀医科大学医学部付属病院	山原　康佑
湘南鎌倉総合病院	西口 翔
水戸協同病院	小林 裕幸
千鳥橋病院	米村 栄
船橋二和病院	白井　精一郎
淀川キリスト病院	渡辺　明彦
松本協立病院	上島　邦彦
兵庫医科大学病院	木島貴志
わたり病院	米村 栄
仙台厚生病院	堀江　和紀
浦添総合病院	仲村健太郎
立川相互病院	大塚 信一郎
新潟大学医歯学総合病院	井口　清太郎
姫路医療センター	和泉　才伸

オブザーバー　　内科専攻医代表